

第9回 中山道すがもまつり

「いま、明らかになる幕末の巢鴨とその将来像」

シンポジウムの記録

平成17年3月27日（日）

中山道すがもまつり実行委員会

目次

1. 中山道すがもまつりの概要

- (1) 中山道すがもまつりの目的 1
- (2) 第九回 中山道すがもまつりの開催要項 2
- (3) 「中山道すがもまつり」委員会組織 3
- (4) 参加者とアンケート調査 4

2. シンポジウムの記録

- (1) 主催者挨拶
 - 【開会の辞】 7
 - 【いま何故街づくりか】 8
- (2) 基調講演
 - 【新発見資料「巣鴨町軒別絵図」にみる巣鴨の街並み】 9
 - 【「巣鴨街並みの変遷と今」(明治から現在)】 17
- (3) パネルディスカッション
 - 【「巣鴨の将来像」 - 中心市街地活性化事業と街づくりの方向を巡って - 】 30

1. 中山道すがもまつりの概要

(1) 中山道すがもまつりの目的

＜中山道「すがも」まつり＞は地域の歴史と文化を再発見し、併せて地域の振興と文化活動を目的に平成元年に地域の有志を集め、実行委員会を組織しその後、隔年ごとに開催している。

第一回は「シャッターメディア・中山道六十九次」を開催し、巣鴨地区の歴史的文化的土壌を啓発した。続いて、平成二年に「ギネスに挑戦・世界一鉄火巻」を開催。又、このころから巣鴨の歴史的文化的である「菊造り」並びに「菊の形造り」を知らしめるため、「すがも菊まつり」開催のため準備を開始。

平成四年には豊島区に縁のある和泉流宗家の和泉元秀氏の御協力にて「すがも薪狂言」を開催し地域の文化活動の一翼を担った。平成六年の第四回では「豊島区伝統工芸展」として、豊島区内の伝統工芸保存会の御協力を得て開催された。平成八年には「江戸消防今昔」として阪神大震災を間近に経験したことを踏まえ、防災意識の啓発と消防意識の普及に努めた。平成十年には「徳川慶喜と明治の巣鴨」と題し、慶喜公が巣鴨に居した「梅屋敷」の記念碑造立、記念式典と明治期の巣鴨の展示と慶喜公愛用の手あぶり等を展示し、多くの見学者を楽しませ、巣鴨の歴史と文化をアピールした。平成十二年「すがもの昔、江戸の町」は巣鴨地区の遺跡調査の展示と江戸の町並みを再現し、歴史と文化の町巣鴨をアピールした。

そして、平成十四年には「中山道開道400年祭」として、大名行列、町屋の再現、模擬店さらに待夢会場では地域音楽祭、演芸祭など多彩なイベントが組まれた。このイベントを通して地域住民のみならず、多くの来街者に巣鴨の地域と商店街を歴史的時間を縦軸に巣鴨広域地域を横軸に展開し「巣鴨の歴史と文化」をアピールすることが出来た。

以上が、これまでの実績であるが、毎回ごとに豊島区のご後援と地域の方々の御理解と御援助にて成功裏に開催されたことを、此処に記載し感謝申し上げますと共に、今後の発展の礎と考えております。

中山道「すがも」まつりの歴史とサブタイトル

平成元年・・・「シャッターメディア・中山道六十九次」

平成二年・・・「ギネスに挑戦・世界一鉄火巻」

平成四年・・・「すがも薪狂言」

平成六年・・・「豊島区伝統工芸展」

平成八年・・・「江戸消防今昔」

平成十年・・・「徳川慶喜と明治の巣鴨」

平成十二年・・・「すがもの昔、江戸の町」

平成十四年・・・「中山道開道400年祭」

すがも「中山道」菊まつり

平成五年・・・第一回開催、平成六年・・・第二回開催、平成七年・・・第三回開催、

平成八年・・・第四回開催、平成九年・・・第五回開催、平成十年・・・第六回開催

平成十一年・・・第七回開催、平成十二年・・・第八回開催、平成十三年・・・第九回開催

平成十四年・・・第十回開催、平成十五年・・・第十一回開催、平成十六年・・・第十二回開催、

(2) 第九回 中山道すがもまつりの開催要項

事業目的・・・不況は地域社会を底辺で支えてきた、中小零細商店・企業を直撃し、倒産や店舗の閉店が相次ぎ、店舗の数は減少の一途をたどっております。また、売り上げの減少も巣鴨地域では激しく、早急なる活性化事業を本格化し事業化を進めていかなければなりません。このような中、巣鴨地区にて、地域の連帯の強化と、楽しく安心して過ごせる地域づくり（町づくり）は急務のことと感ぜられます。

今回、「巣鴨の街並み」の新資料の発見と共に、千川上水道の役割を通して、江戸時代より行われてきた社会基盤整備の実態を、その時期の世界の都市と比べつつ、当時の都市計画を知るところを、また活力のある町づくりを目指して、現在計画される「中心市街地活性化事業」に期待するところを、講演会とシンポジウムを通して、地域住民に喚起し、一層の地域の活性化と個性ある地域の発展を目指す事、並びに全国へ街づくりの情報発信することを事業の主たる目的とします。

■開催期日・・・平成17年3月27日（日） 開 場：PM3：00

■開催場所 巣鴨信用金庫ホール

■プログラム

3：00PM 開会の辞

【主催者挨拶】

3：30PM 鳥居 慎譽（実行委員長）

3：35～3：45PM 『いま何故街づくりか』 木崎 茂雄（巣鴨地藏通り商店街理事長）

【基調講演】

3：45～4：35PM 『新発見資料「巣鴨町軒別絵図」にみる巣鴨の街並み』

講師：高尾 善希（東京都公文書館非常勤職員）

4：35～5：25PM 『巣鴨の街並みの変遷と今（明治から現在）』

講師：辻野 五郎丸（株式会社修景社代表）

【休 憩】

【パネルディスカッション】 5：40～7：10PM

「巣鴨の将来像」（中心市街地活性化事業と街づくりの方向）

コーディネーター：辻野 五郎丸（株式会社修景社代表）

パネリスト ：内田 雄三（東洋大学教授）

宮崎 牧子（大正大学助教授）

齋藤 賢司（豊島区商工部長）

高尾 善希（東京都公文書館非常勤職員）

鶴島 孝一（FUTURE FIELD 代表、WS参加チーム）

【セレモニー】 7：20～7：30PM

挨拶・・・高野 之夫（豊島区長）

挨拶・・・足立 勲（豊島区商店街連合会会長）

挨拶・・・中村 丈一（豊島区商工部長）

挨拶・・・長島 眞（巣鴨駅前商店街組合理事長）

【懇親会】 7：30～8：30PM

お礼の言葉・・・森本 一登（巣一商店会会長）

(3) 中山道すがもまつり委員会組織

主 催・・・中山道すがもまつり実行委員会

特別共催・・・巣鴨地区街づくり協議会

共 催・・・巣鴨地蔵通り商店街振興組合、巣鴨駅前商店街振興組合、巣一商店会、巣鴨信用金庫、

後 援・・・豊島区、豊島区商店街連合会、豊島区観光協会、とげぬき地蔵尊高岩寺、江戸六地蔵尊眞性寺、

協 賛・・・城北信用金庫地蔵通り支店、第一勧業信用組合巣鴨支店、巣鴨門前仲見世会、中央名店会、巣鴨四丁目サービス会、巣鴨ライオンズクラブ、

協 力・・・豊島区第一地区区政連絡会、第一地区青少年育成委員会、J R 東日本・巣鴨駅、東京都交通局巣鴨、豊島郵便局、豊島テレビ、豊島新聞、クワハラ無線、モリタ電器

特別協力・・・巣鴨百選会、(株) 修景社、東洋大学内田研究室、大正大学社会福祉研究室、

委員会名簿（敬称略）

名誉 会長 高野 之夫（豊島区長）

顧 問 来馬 規雄（高岩寺住職）

立延 哲夫（巣鴨警察署長）

吉澤 俊夫（豊島消防署長）

足立 勲（豊島区商店街連合会会長）

岡本 重史（豊島区観光協会会長）

中村 丈一（豊島区長会連合会会長）

田村 和久（巣鴨信用金庫理事長）

秋元 政江（第一地区青少年育成委員会会長）

相 談 役 久保 雄作、 向野 博、 春山 巖、 古澤 秀明、
照内 義雄、 三島彌一郎、 福本吉太郎、 鈴木知江子、
高田 昌彦、 藤原 佐吉、 岩崎 光雄、 吉田 博子、
糟谷 倉吉、 土屋 正夫、 山田音次郎、 松岡 貞夫、
平子 浅雄、 平林 正男、 松宮 敬蔵、 上村徳之助、
澤海 二郎、 宇埜 正純、

委 員 長 鳥居 慎譽

副 委員長 木崎 茂雄、 長島 眞、 森本 一登、

委 員 岸 勝正、 向井 重信、 北村 寛志、 野田 彰造、
田村 孝七、 福島 紀彦、 堀口 信行、 篠 英太郎、
新藤 和男、 吉井 公明、 松宮 正明、 佐藤 行雄、
足立 高道、 篠原 規之、 塚本 貞司、 鈴木 榮一、
五十嵐公昭、 山内 雅晴、 加藤 恭一、 篠原 政良、
矢崎 晴久、 工藤 秀治、 菊谷 正治、 坂上 正英、
深澤 武仁、 井上 好尉、 松宮 秀明、

(4) 参加者及びアンケート調査の概要



シンポジウムの参加者は約 120 名に達した。また、シンポジウムの参加者に対し「シンポジウムの感想」のフリーアンケートを実施した結果、56 名の方から回答をいただいた。

回答をいただいた方の約 7 割は、巣鴨 1～4 丁目、西巣鴨 2～4 丁目等豊島区内の方々に占められている。文京区など他区内及び、千葉、埼玉などの近県から見えられた方々からも回答をいただいた。

回答者の多くの多くの方々から“興味深かった”“歴史を街づくりに生かすべき”など概ね好意的な評価をいただいた。

＜アンケート調査の回答内容＞

回答者の居住地	回答者数	意見・感想
豊島区	巣鴨一丁目	● 豊島区が 23 区内で一番貧乏と区議会議員の方々が言われますが、何とか高収入を得る区民が 1 人でも多く住み、働いてくれることを願っています。三越デパート、高島屋、西武、東武、全ての大手デパートの納税は本社だそうです。
		● ①大変興味深く聞きました。②特に駅から中心地よりの地域（駅から反対側）は取り残されています。以前（江戸期）のように含めないのですか。③地下の利用はお考えですか。
		● 巣鴨に住み 15 年となり大変暮らしやすい町だと思いました。より住みやすい町になったと思います。
		● 高齢者社会に対応できる巣鴨の街をお願いいたします。
	二丁目 巣鴨	● 非常に勉強になりました。若い人達の活躍を期待しています。辻野先生の資料が欲しいです。
		● 巣鴨の町づくり大変勉強になりました。
		● 興味深く伺いました。長時間なので疲れました。
	巣鴨三丁目	● 最後まで聴けなくてすみません。終了時間がもう少し早ければ全て通して聴くことが出来たので、次回は早めに終了するようにしていただきたい。（案内に終了時間が明記されていなかったのも、次回は明記するようにして下さい）
		● ボランティアによる歴史、文化の案内サービスの設定
		● 「市街地整備云々」における短期、中期（長期）の定義は具体的にどの位の期間を想定しているのですか。コンセプトを固めてからであれば、4～5 年後が短期ですか。
		● 次回は日、時の設定と短時間で内容のあるものだけにすることを考えてください。

回答者の 居住地	回答 者数	意見・感想
豊島区	巣鴨四丁目	● 昭和 25 年より現地に住まわせて頂いてます。よりよい町とお心づかい有難いと思います。
		● 『巣鴨町軒別絵図』を初めて知ったが、実に面白く貴重な資料だと思う。古くからの商店が自分の祖先をたどるのに格好の材料となる。その結果をまとめて見るのも面白いかもしれない。 ・千川上水と中山道のかかわり、商店街と露店商の調査データが中々面白いと思った。これからの町づくりの基礎的資料となると考える。
		● 「中山道すがもまつり実行委員会」とはどのような組織か一言ふれて頂きたかった。
		● 今後も何かこのようなフォーラムを行って欲しい。
		● ・パネラーの皆さんはなぜ地藏通りを高岩寺までなのか。 ・ビル化通りになっている。高さの問題は建てるのが認可されているので早く区などで決定して欲しい。 ・ビルの高さ、1Fは必ず店舗にして、5 階ぐらいがよい。 ・中山道としてもっと考えて欲しい。
		● 興味深く拝聴いたしました。高尾先生の話が大変面白かった。
		● ・パネリストの大学関係の方は学部名迄記載してほしい!! ・世代間交流は“おばあちゃんの町”からのイメージを変える必要がある。 ・老人にパソコン、デジカメを無料で教えるコーナーを作る。メール、インターネットを巣鴨の町から直接送れるようになるまでコーチする。 ・スーパー銭湯を中央卸売市場に作る。又、同じ場所に大規模な駐車場を作る。
		● 非常に興味を持っていましたが、本日 (3/27) は忙しく一部の講演しか出席できませんでした。次回の講演を楽しみにしています。戦後巣鴨に移り住み 55 年が経ちました。様々な思いが思い出されます。なつかしさと今後の巣鴨の将来像を聴いて見たく思います。入口部分に考えが集中しているが出口?庚申塚方向をどのように考えているのかも話をお聞きたい。
	二丁目 西巣鴨	● 旧中山道→明治通り⇄庚申塚電停前間も活性化への方策は如何ですか?西巣鴨は別途の対象でしたね!
		● 大変興味深く感じました。
		● 辻野先生の講演で最初に話された水の道の資料がいただければと思っております。
		● ・報告書のバックナンバーがあったら頂きたい。 ・他の商店街を参考にしているのかお聞きたい。①柴又②大山③一ツ木通り ・全面、全時間帯の車両通行止めは困難。並木は、緊急自動車の通行も不可にする。
	その他 ※ 1	● 幕末の巣鴨の題につられて出席しました。私の考えと中身が違って面白くなかった。でも多数の方が巣鴨の発展に取り組んでいる事は、勉強になりました。ありがとうございました。
		● 商店街、地域の発展の為にもっともっと勉強し、お役に少しでもたてます様頑張っ参りたいと思います。又、是非参加させて頂きたいと思います。ありがとうございました。
	小計	40

回答者の居住地	回答者数	意見・感想
文京区 ※2	5	● ・この様な絵図が発見されたのですから、是非この町の江戸から現在にいたる映画を是非作っていただけたらと思っています。 ・質問 実際に和宮のお伴の方々は巣鴨の町を使ったのでしょうか。 ● 子供達を含めて、巣鴨の町が活性化し、未来永劫に栄えていくように。歴史と伝統を重んじ、江戸の発想を現代に生かす。個々の事業を全体の発展の中で考えることが大事であると所存する次第であります。 ● 切り絵図、巣鴨の土地条件等楽しく聞かせていただきました。巣鴨周辺の歴史のお話の時は是非お知らせくださいませ。 ● 街づくりの歴史、人、エネルギーを感じます。
豊島 文京区以外 ※3	6	● ・高尾先生の話は魅力的でした。 ・以下提案と感想 ①中央卸売市場側からのアプローチ整備と"拠点"づくり(巣鴨駅→〇〇→交通局、中央卸売市場、分庁舎に拠点)をすること ②地蔵通り入口の通路を改善(例えばエレベーターをつくり、高岩寺にやさしい配慮をする。渋谷道路際にエレベーター付きの高速道路上部の通路が実例) ③"高岩寺"の駐車場は観光バスが停車。ガイド付きの高齢者の団体がおりたこちら側の道路沿いに"店舗"が欲しい。 ④魅力ある店舗(飲食店)が少ないと思う。特に高齢者もさることながら、若い人も(夫婦、夫婦+子供)も多い。これらの人がいっぴくできる店舗(優れた)が少ないので、作ると良い。白山通りが正面になることも考えられるから。 ⑤いろいろな人が提案をされているが、実現化の段階と思う。ハード面もさることながら、しっかりとしたソフトを先ず作るべきだろう。少しハード面が先行しているように思う。商店街の人のお考えが見えなかった。 ⑥植木もさることながら、庚申塚、皇女和宮降嫁の行列が通ったこと(歴史)は、全国区(全国へのアピール)としてPRできるだろう。南側の慶喜住居も含めて守って欲しい。 ● まちづくりで働ける場を提供して下さい。TMOでぜひ働かせて下さい。 ● 大変興味深く聞くことが出来ました。公文書のこと、発想豊かなインターフェイスなど参考になりました。 ● パブリックコメントの機会を(住民と関心のある人)多く持つことの必要を感じさせられ、その意味を深く覚えました。この地区に週に1回来ておりますので、より興味をもって参加させていただきました。街の歴史(文化)をいかに伝播し、それを基にした新しい文化を取り入れ十分こなしたものを創造する意味を痛感したフォーラムでした。有難うございました。公私協働の可案をのぞみたいと思います。 ● いろんな視点からの話が聞けて非常に興味深かったです。貴重な機会をありがとうございました。
他県 ※4	5	● その昔豊島、板橋、練馬、杉並に住まい、巣鴨の歴史はあまりにも古い土地であるため高岩寺、真性寺のあり方、桜、午旁とともに江戸のあり方を知ることが出来ました。関係のない人間が貴重な会場に参加させていただきましたことを深く感謝いたします。どうかこの街の発展とご成果のありますようお祈り申し上げます。 ● ご両人の講演、大変興味深く伺いました。ありがとうございます。所用があるため失礼します。
回答者合計	56	

※1 駒込3,4丁目、西池袋1丁目

※2 白山4丁目、本郷1丁目、千石2,3,4丁目

※3 板橋区、北区、大田区、世田谷区、渋谷区、目黒区

※4 静岡県、千葉県、茨城県、埼玉県

2. シンポジウムの記録

(1)主催者挨拶

【開会の辞】

中山道「すがも」まつり実行委員会
委員長 鳥居 慎譽



写真 平子相談役（鳥居実行委員長代読）

中山道「すがも」まつりは、地域の歴史や文化を見直し、信仰や文化をより活性化させようという目的で始まりました。平成元年より1年おきに開催をし、本年は第9回目の開催となります。毎回趣向を凝らしたテーマを掲げて開催してまいりました。おかげさまで各開催とも、地域の皆様のご協力を得て成功させて、今日まで至っております。

現在、巣鴨駅前地区の国道17号線の歩道空間整備と国道17号線の巣鴨から西巣鴨への拡張工事等が進められており、巣鴨の状況が一変することが予測され、今後の巣鴨の街づくりはいかにあるべきかを考える時期にきております。本年は、江戸時代の街並

みの新資料が発見されたことを契機に、「いま、明らかになる幕末の巣鴨とその将来像」と題しまして、基調講演とパネルディスカッションを行い、地域の人々にこの問題を提起し、一層の活性化と個性溢れた地域の発展を目指したいと存じております。今回はこのように巣鴨の将来をかけた催しとさせて頂きましたが、私共巣鴨の住民にとっては、誠に重要な問題でありますので、この趣旨をご理解頂きまして、ご協力頂ければ幸いです。

【いま何故街づくりカーシンプोजウムへの期待】

巢鴨地蔵通り商店街理事長

木崎 茂雄



巢鴨地蔵通り商店街が「おばあちゃん原宿」と言われるようになって、今年で20年になります。

昭和60年に読売新聞の記者が、若者の原宿と対比させて、中高年、とりわけ「おばあちゃん原宿」という名前を付けたのがきっかけとなりました。巢鴨という場所は、山の手なのですが下町の雰囲気漂っていて、時間がゆったり流れている地域だと思います。その中で、昔からとげぬき地蔵尊と江戸六地蔵尊の2つのお地蔵様に守られながら街づくりが行われてきました。私達の地蔵通り商店街は、旧中山道

です。江戸時代の中頃から町屋が形成され始めました。その頃から江戸六地蔵尊のある真性寺様の門前町として栄えて参りました。明治24年にとげぬき地蔵尊のある高岩寺様が上野から巢鴨に移転されまして、やはり巢鴨はお地蔵様にご縁があり、そのお陰で発展したのだと思います。

現在、巢鴨1丁目商店街から庚申塚周辺まで、昔の街の面影がだんだんと薄れてきておりますが、他所の地域に比べますと、懐かしい雰囲気が残っておりますし、何よりも人々がゆったりと歩いている光景がよく見られると思います。巢鴨の空気に触れたり、商店街の佇まいや設え方が目に入ってくると自然にゆったりとした気分になれるというのは、巢鴨の良さの一つではないかと思います。

そのような中、バブル期前後くらいから国道17号線の拡幅事業が始まりました。道路が拡幅されることにより街並みが壊されるということで私たちは非常に危機感を持ち始めました。そこで平成10年の12月に巢鴨地区街づくり協議会を発足させ、技術顧問の先生方にご協力を得て今日まで行政と様々な協議を重ねて参りました。また、昨年街づくり協議会でワークショップを開催致しました。ワークショップでは、巢鴨の近未来像を若い方々に描いて頂きました。このことをきっかけに行政との協議の中で、TMOの設立させようという動きが起きました。このTMOは巢鴨だけではなく、大塚地区も含めた事業となっております。そして、東京都公文書図書館の高尾先生が偶然にも、皇女和宮の下向に関する資料の中から「巢鴨町軒別絵図」というものを発見して下さいました。大名や旗本の屋敷名は地図上に記載されていますが、町家に住んでいる人々の名前、職種等の記載された地図はほとんど発見されていないので、今回発見された資料は非常に貴重なものであります。このことが「巢鴨百選」に掲載されたことをきっかけに、国道17号線の拡幅事業、まちづくりワークショップ、TMOをもからめて、地域の皆さんと巢鴨について考え、近い未来を話し合いたいということでこのような会を開催させて頂きました。今日は巢鴨の生き様、これからの巢鴨のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

(2) 基調講演

【新発見資料「巣鴨町軒別絵図」にみる巣鴨の街並み】

東京都公文書館非常勤職員

高尾 善希

(1) はじめに

江戸時代、江戸には切絵図というののものがあまして、江戸の各地域ごとに区切った詳しい絵図が販売されていました。文字にしてある情報というのはほとんどが武家地やお寺です。商人や百姓といった人々が住んでいる町方については、その地域名が記載されるだけで、そこにどういう人が住んでいて、どのような暮らしをしていたのかということは全く描かれていないのです。それが江戸の町中を謎にしまう一つの要因ともなっています。しかし巣鴨町に関しては、この度巣鴨の街並みが詳細に記載してある「巣鴨町軒別絵図」を発見することができました。これは江戸御府内でもかなり珍しい史料です。しかも「巣鴨町軒別絵図」にはまとめて 240 軒、誰がどこに住んでいてどういう職業であったか、また、権利関係まで詳しく記載してありますので、江戸全体の情報としても非常に貴重なものです。

(2) 江戸における巣鴨

江戸の町として、巣鴨は新しい町です。また、江戸の境界地ということもあり、巣鴨は非常に面白い地域性を持つことになったように思います。江戸には城壁がありません。従って、都市の範囲がどんどん広がっていきます。どこからどこまでが江戸なのかということについては、随分後になるまで決まっていませんでした。文政元年(1818)になってようやく幕府が江戸の範囲を取り決めました。江戸の範囲を示すものに、墨引内と朱引内の2つがあります(図1-1)。前者は町奉行の支配地で、後者は文政元年に「御府内」として、拡大する江戸市街の実態にあわせて幕府が示したもので、寺社が寄付を集める勧進の許される範囲とされていました。しかし、具体的にどこからどこまでが江戸なのかというと、様々な解釈がなされています。ですから巣鴨も江戸かと言われると、範囲としては墨引内に入っておりますが、境界部分に当たりますし、当時の人々の意識からすれば、江戸近郊の地という感じではなかったのかというふうに思います。従いまして、巣鴨町というのは江戸の歴史から見ても随分新しい歴史を持っているのです。江戸の土地利用についてですが、意外なことに朱引内の約半分は農地です。ですから田園都市というのが江戸の特徴になってくると思います。



図 1-1 江戸の範囲

る範囲とされていました。しかし、具体的にどこからどこまでが江戸なのかというと、様々な解釈がなされています。ですから巣鴨も江戸かと言われると、範囲としては墨引内に入っておりますが、境界部分に当たりますし、当時の人々の意識からすれば、江戸近郊の地という感じではなかったのかというふうに思います。従いまして、巣鴨町というのは江戸の歴史から見ても随分新しい歴史を持っているのです。江戸の土地利用についてですが、意外なことに朱引内の約半分は農地です。ですから田園都市というのが江戸の特徴になってくると思います。

以上をまとめますと、まず一つ目は、江戸は早くから日本の中心地として発展してきましたけれども、大発展を遂げて一応の完成形を見るのが、化政文化が栄えた 18 世後半から 19 世紀初めくらいのことです。二つ目は、江戸は非常に緑が豊かで、田園が広がっている都市であったことが言えます。

それでは境界というものを違う視点から見ていきたいと思います。江戸六地藏というものがあります(図1-2)。お地藏様というのは大方村外れに立っていました。土地の境界、境目を守るという役目を担っています。巣鴨にも真性寺様に江戸六地藏の一つがあります。これは江戸の境界を示しております。巣鴨以外にも甲州街道の太宗寺、東海道の品川寺、千葉街道の永代寺、水戸街道の靈巖寺、奥州街道の東禅寺があります。この六箇所は当時の人々に江戸の境界として意識されていたのです。江戸にとって境界であるということは、巣鴨を考える上で非常に重要であることだと思います。

次に巣鴨町について述べます。巣鴨町の前は巣鴨村という名前でした。この巣鴨村は歴史が古く、多くの遺物等が発掘によって発見されています。ただ、町として成立するのは随分後になります。元文2年(1737)に町屋が公許され、延享2年(1745)には町並地となったのです。つまり、町奉行支配になったのは江戸開府から150年も経ってからなのです。史料の切絵図(図1-3)からもわかるように、巣鴨地区周辺には田園が広がっており、中心には中山道が通っていました。中山道沿いには武家地と町並地が形成されているのです。また、巣鴨駅周辺には武家地が広がっていました。庚申塚から真性寺様にかけて上、上仲、下仲、下という4つの組に分かれていました。どういう店が巣鴨の町並みとして目玉であったのかというと、植木屋や花屋です。巣鴨町の植木屋は菊作りが非常に得意でした。多くの出店で菊を展示販売し、多数の見物客が訪れ賑わっていたということです。



図1-2 江戸六地藏位置図



図1-3 江戸時代の巣鴨町の様子

(3) 和宮下向による「巣鴨町軒別絵図」の作成

「巣鴨町軒別絵図」から巣鴨の地域性をどのように読みとれるのかについて考えてみたいと思います。まず、この絵図がどうして作られたのかというと、皇女和宮が中山道を下向してくるために作られたのです。板橋宿を利用するはずだったのですが、あまりにも行列の人数が多いので宿泊施設が足りず、急遽巣鴨町を宿泊地の対象とせざるを得なくなったのです。そこで慌てて「巣鴨町軒別絵図」を幕府に作らせたようです。それでこの絵図が江戸幕府の公文書に残されることになりました。おそらく宿泊の対象にするためだと思いますが、大きい家に関しては丸印がついております。

上組の非常に大きな特徴として、飼葉屋と馬持、かこ昇渡世の人々が非常に密集しております(図1-4)。これは巣鴨町が交通の拠点だったからだと思います。上組の真中辺りには食べ物屋が並んでいます。お

そらく旅人がここで馬や籠を乗り継いだ時に休憩していく場所ではなかったかと思います。また、上組には青物屋が密集していることも大きな特徴になっています。周辺には田園地帯が広がっています。ですから近くの村から農作物を運んできて、売りさばいていたのではないかと思います。上組には植木屋が2軒しかありません。したがって、巣鴨町の一番庚申塚寄りの上組は、青物市場や交通業者の集住地域であるということが出来ます。

上仲組では、植木屋や花屋が多く見られます(図1-4,1-5)。上組では交通業者と飲食業者が並んでいると紹介しましたが、植木屋に関しても同じように、近くに必ず飲食店があります。要するに、江戸の人々が植木を見物しに来るのですが、見物するついでに飲み食いもするのです。そういうことで植木屋と飲食店が並んで配置されているのではないかと思います。

下仲組については現在巣鴨駅前商店街に洋服店パリスさんがあります(図1-5,1-6)。そこの方がこの絵図に記載されている斉田弥次郎さんのご子孫になります。江戸時代とほぼ同じ位置にお住まいになっているという非常に珍しい例です。また、現在の桃花源ビル付近は江戸時代、飲み屋や飯屋が密集していたようです。今もこの辺りも現在飲み屋や飯屋が集中しており、大方江戸時代と同じような感じであったということがわかります。保坂四郎左衛門という植木屋の方がいたのですが、このお宅は当時巣鴨の中でも非常に由緒のある家で、まだ巣鴨村であったときに、開発に関わった由緒のあるお宅です。保坂さんのご子孫もほぼ同じところにお住まいになっておられます。この上仲組・下仲組は植木屋の繁華街といえますか、植木屋で見物して飲食店で飲み食いするというようなところであったと思われます。

下組については線路を渡って、はい原酒店がある所が、昔は福島弥三郎という菓子屋でした(図1-6)。現在、巣鴨駅前に福島屋という和菓子屋がありますが、そのご先祖様のお宅であることがわかりました。つまり、福島屋さんは江戸時代から菓子屋をやっているということが判明したのです。福島屋さんは創業を慶応と言っておりましたが、この絵図は文久元年(1861)ということですから、6年も創業開始の年をさかのぼらなければならないことになったのです。このことに福島屋さんは非常に驚かれていました。

「巣鴨町軒別絵図」と現在の地図とをあわせて見ますと、福島弥三郎の位置とはいは原ビルの位置がぴったり一致するのです。これは非常に興味深い事例であります。下組になりますと、酒屋さんや古道具屋、荒物屋等、少し江戸の中心部と密接なつながりがありそうな感じのお店が並んでいます。これらを合わせまして合計240軒が絵図に記載されております。

(中山道)
京方

番号	職業	所持関係	名前	備考
1	—	—	(自身番屋)	—
2	飼葉屋	市兵衛地借	久次郎	○
3	馬持	市兵衛地借	初太郎	○
4	菓子屋	市兵衛地借	熊蔵	○
5	飯屋	市兵衛地借	平兵衛(松本屋)	○
6	穀物屋	家持	平助	○
7	蕎麦屋	市兵衛店	専助	—
8	下駄屋	市兵衛店	仙之助	—
9	日屋渡世	市兵衛店	新次郎	—
10	湯屋	家主	伊右衛門	○
11	水菓子屋	久兵衛店	伝次郎	○
12	春米屋	久兵衛店	忠蔵	○
13	飯屋	家主	権兵衛	○
14	—	—	(明店)	—
15	日屋渡世	市兵衛店	武兵衛	—
16	馬持	市兵衛地借	鉄五郎	—
17	蕎麦屋	林右衛門地借	助次郎	—
18	味噌屋	家主	林右衛門	—
19	荒物屋	家主	嘉七(近江屋)	○
20	紺屋	家主	半次郎(中屋)	○
21	わらや	半次郎店	茂吉	—
22	かご昇渡世	半次郎店	米吉	—
23	蔵人足	半次郎店	善蔵	—
24	居酒屋	家主	定七	—
25	水菓子屋	半蔵店	徳太郎	—
26	青物屋	吉兵衛店	豊吉	—
27	蕎麦屋	吉兵衛店	金兵衛	—
28	繻木屋	吉兵衛店	留五郎	—
29	酒屋	勘太郎店	藤吉	○
30	桶屋	勘太郎店	鉄五郎	—
31	駕籠屋	藤三郎店	竹蔵	—
32	青物屋	藤三郎店	寅五郎	—
33	油屋	藤三郎店	金次郎	—
34	鍛冶屋	家主	藤三郎	○
35	馬具屋	六左衛門店	久蔵	○
36	水菓子屋	八兵衛店	政吉	—
37	紙屋	八兵衛店	龜五郎	—
38	瀬戸物屋	弥右衛門店	小三郎	—
39	水菓子屋	国次郎店	次郎吉	—
40	肴屋	与惣兵衛店	新蔵	—
41	花屋	与惣兵衛店	留五郎	—
42	景屋	与惣兵衛店	多吉	—
43	水菓子屋	与惣兵衛店	安五郎	—
44	かごや	与惣兵衛店	新吉	—
45	春米屋	家主	小兵衛(川越屋)	○
46	肴屋	小兵衛店	豊吉	—
47	繻木屋	小兵衛店	久五郎	—
48	青物屋	紋太郎店	三五郎	—
49	繻木屋	家主	紋太郎	○
50	酒屋	善四郎店	金兵衛	—
51	青物屋	善四郎店	太助	—
52	古道具屋	善四郎店	吉五郎	—
53	大工	善四郎店	庄右衛門	—
54	肴屋	善四郎店	兼吉	—
55	万屋	家主	治左衛門	○
56	機屋	弥左衛門店	万吉	—
57	金物屋	弥左衛門店	常次郎	—
58	絵馬屋	平次郎店	竹次郎	○
59	鍛冶屋	伝右衛門店	幸右衛門	—
60	わらや	伝右衛門店	直次郎	—
61	馬具屋	家持	伝右衛門	—

木戸

上

組

木戸

上

中

組

職業	所持関係	名前	備考
—	—	(明店)	—
—	—	(明店)	○
荒屋	久太郎地借	作右衛門	—
練屋	久太郎店	竹次郎	—
米屋	家主	市兵衛	○
日屋渡世	五人組持店	儀兵衛	—
かご昇渡世	五人組持店	竹次郎	—
髪結職	五人組持店	万吉	—
古道具屋	五人組持店	留吉	—
—	—	(明店)	—
鍛冶屋	五人組持店	忠八	—
材木屋	家持	平三郎	○
大工	家主	清七	—
肴屋	清七店	伊助	—
小間物屋	清七店	安五郎	—
手習餅	清七地借	栄次郎	○
—	—	(明店)	—
日屋渡世	清七店	清吉	—
醤油屋	清七店	重蔵	—
日屋渡世	清七店	銀蔵	—
繻木屋	家主	寛左衛門	○
大工	八助店	平太郎	—
—	—	(明店)	—
種物屋	家主	八助	○
青物屋	金右衛門店	龜吉	—
—	—	(明店)	—
かご昇渡世	金右衛門店	基吉	—
油屋	権兵衛店	八五郎	—
棒屋	家主	基兵衛	—
衣屋	家主	久五郎	—
髪結職	久五郎店	福松	—
鍛冶屋	家主	平左衛門	—
日屋渡世	平左衛門店	重吉	—
仕立屋	家主	権左衛門	—
青物屋	半蔵店	清助	—
桶屋	家主	安五郎	—
荒物屋	安五郎店	安太郎	—
青物屋	安五郎店	七五郎	—
日屋渡世	利右衛門店	治助	—
日屋渡世	利右衛門店	龜五郎	—
蔵人足	利右衛門店	八五郎	—
古道具屋	利右衛門店	由太郎	—
春米屋	家主	治右衛門	○
酒屋	家主	孫兵衛(伊勢屋)	—
—	—	(自身番屋)	—
繻木屋	家主	紋右衛門	○
素類屋	紋右衛門店	喜太郎	—
日屋渡世	紋右衛門店	金次郎	—
日屋渡世	紋右衛門店	晋五郎	—
鍋屋	乙右衛門店	喜太郎	—
直屋	乙右衛門店	重右衛門	—
木具屋	乙右衛門店	竹次郎	—
薬種屋	乙右衛門店	久兵衛	—
足袋屋	乙右衛門店	兼五郎	—
道具屋	乙右衛門店	庄蔵	—
豆腐屋	乙右衛門店	平次郎	—
居酒屋	由左衛門店	弥助	○
髪結職	由左衛門店	金五郎	—

図 1-4 巢鴨町軒別絵図 1 (1861 年 11 月)

A	62	稲木屋	家持	半平	—	上 中 組
	63	春米屋	家持	勝右衛門	—	
	64	稲木屋	家持	卯之吉(内山)	—	
	65	繪馬屋	卯之吉店	久五郎	—	
	66	青物屋	卯之吉店	辰五郎	—	
	67	—	—	(明店)	—	
	68	—	—	(明店)	—	
	69	焼芋屋	卯之吉店	金蔵	—	
	70	稲木屋	家持	眞右衛門	—	
	71	鍛冶屋	兵右衛門店	国松	—	
B	72	青物屋	平七店	七五郎	—	眞性寺 下
	73	煎屋	平七店	利八	—	
	74	春米屋	平七店	久兵衛	—	
	75	—	—	(明店)	—	
	76	稲木屋	家持	平七	○	
	77	飯屋	三九郎店	七右衛門	○	
	78	稲木屋	家持	三九郎	—	
	79	稲木屋	家持	長太郎(内山 草花屋)	○	
	80	松魚師屋	長太郎店	亀五郎	—	
	81	明神屋	家主	巳之助	—	
	82	日屋渡世	巳之助店	新兵衛	—	洋販店ハ入 中 組
	83	大工	巳之助店	勘兵衛	—	
	84	人形屋	巳之助店	清吉	—	
	85	肴屋	巳之助店	伊三郎	—	
	86	日屋渡世	巳之助店	兼吉	—	
	87	寺	—	(眞性寺)	—	
	88	荒物屋	巳之助店	伝蔵	—	
	89	古着屋	巳之助地借	万五郎	—	
	90	湯屋	家主	善次郎	○	
	91	木挽	善次郎地借	重兵衛	—	
	98	稲木屋	家持	弥三郎(斎田)	—	桃花源ビル 中 組
	99	車屋	弥三郎店	勘次郎	—	
	100	稲木屋	源五郎地借	三四郎	—	
	101	髪結職	源五郎地借	市五郎	—	
	102	鍛冶屋	家持	源五郎(中屋)	○	
	103	—	—	(明店)	—	
	104	日屋渡世	源五郎店	久次郎	—	
	105	居酒屋	源五郎店	忠蔵	—	
	106	居酒屋	源五郎店	忠次郎	—	
	107	稲木屋	四郎左衛門店	巳之助	—	
	108	稲木屋	四郎左衛門店	富次郎	—	(武家地)
	109	飯屋	四郎左衛門地借	平右衛門	○	
	110	稲木屋	家持	四郎左衛門(保坂)	○	
	111	半間屋	家持	定七	○	
	112	肴屋	藤吉店	治郎吉	—	
	113	—	—	(明店)	—	
	114	日屋渡世	藤吉店	磯吉	—	
	115	研屋	藤吉店	幸蔵	—	
	116	—	—	(明店)	—	
	117	—	—	(明店)	—	
	118	古道具屋	藤吉店	眞右衛門	—	このあたり 巢鴨駅前
	119	稲木屋	家持	徳右衛門(保坂)	○	
	120	大工	藤吉店	吉五郎	—	
	121	日屋渡世	藤吉店	平五郎後家いよ	○	
	122	稲木屋	吉兵衛店	善作	—	
	123	青物屋	吉兵衛店	伊之助	—	
	124	古道具屋	吉兵衛店	紋右衛門	—	
	125	鍋師	吉兵衛店	儀兵衛	—	
	126	日屋渡世	家主	吉兵衛	—	
	127	きせるや	吉兵衛店	幸吉	—	
	128	紙屋	吉兵衛店	重五郎	—	
	129	稲木屋	家持	佐五右衛門(保坂)	○	
	130	繪馬屋	清次郎店	伝蔵(狂矢 江山堂)	○	
	131	日屋渡世	清次郎店	吉五郎	—	

図 1-5 巢鴨町軒別絵図 2 (1861 年 11 月)

C	132	日麗渡世	清次郎店	利兵衛	—	下 中 組	
	133	—	—	(明店)	—		
	134	香具屋	清次郎店	良助	—		
	135	大工	清次郎店	久松	—		
	136	籠組工屋	清次郎店	忠次郎	—		
	137	—	—	(明店)	—		
	138	—	—	(明店)	—		
	139	酒屋	清次郎店	金兵衛	—		
	140	畳屋	清次郎店	磯五郎	—		
	141	蛸泊屋	清次郎店	久右衛門	—		
	142	青物屋	清次郎店	辰五郎	—		
	143	肴屋	清次郎店	勘次郎	—		
	144	—	—	(自身番屋)	—	木戸	
	145	吉着屋	助右衛門地借	惣兵衛	—		
	146	肴屋	助右衛門店	定次郎	—		
	147	大工	助右衛門地借	源蔵	○		
	148	菓子屋	権右衛門店	弥三郎(福島 福島屋)	—		はい原酒店
	149	小間物屋	権右衛門店	長蔵	—		
	150	荒物屋	権右衛門店	吉兵衛(遠州屋)	—		
	151	小間物屋	権右衛門店	忠兵衛(目野屋)	—		
152	葺屋	家持	文右衛門	○			
153	酒屋	家持	忠右衛門	○			
154	—	—	(治郎兵衛物置)	—			
155	荒物屋	家持	治郎兵衛	○			
156	買屋	家持	金兵衛	○			
157	機屋	金兵衛店	金蔵	○			
158	呉服屋	家持	伊右衛門	—	下		
159	棒屋	五兵衛店	伊之助	—			
160	餅屋	家主	五兵衛	—			
161	湯屋	家持	弥兵衛	○			
162	酒屋	家主	清次郎	—			
163	紙屋	清次郎店	藤兵衛	—			
164	—	—	(明店)	—			
165	—	—	(明店)	—			
166	古道具屋	綱右衛門店	徳右衛門	—			
167	蕎麦屋	綱右衛門店	伊三郎	—			
168	日麗渡世	綱右衛門店	藤右衛門	—	組		
169	乾物屋	綱右衛門店	吉五郎	—			
170	金物屋	綱右衛門店	久三郎	—			
171	菓種屋	家持	久兵衛	○			
172	日麗渡世	新太郎店	三八	—			
173	青物屋	新太郎店	庄三郎	—			
174	荒物屋	新太郎店	与左衛門	—			
175	酒屋	家持	半兵衛(高崎屋)	○			
176	桐油屋	市五郎店	清次郎	—			
177	豆腐屋	市五郎店	吉兵衛	—			
178	酒屋	吉五郎店	栄蔵	—	加賀中納言		
179	髪結職	吉五郎店	市五郎	—			
D	180	古道具屋	吉五郎店	庄五郎	—	江戸方	
(以下、武家地)							

備考

植木屋・花屋の部分

(明店)とは空家であることを示す。備考で○印は「家作」が「手広」な家を示す。文章中の(絵図番号××)とは一番左端の番号をさす。

図 1-6 巢鴨町軒別絵図 3 (1861 年 11 月)

「巢鴨町軒別絵図」と現在の巢鴨の土地がどういうふうにして結びつくのかということについてですが、実際に江戸時代の絵図と結びつく地点というのはあまりありません。現在の巢鴨で、江戸時代の様子がわかっている4地点を記しております。まず1つは真性寺様です。今と位置が変わっておりません。ですからここは合致するポイントとして押さえられます。次の斉田弥三郎さんのお宅は、現在もこの付近に斉田さんのご子孫がお住まいになっておられるので、大方合致していると思われます。次のはい原酒店があります福島弥三郎さんのお宅と、古道具屋庄五郎宅も合致していると思われます。真性寺様から古道具屋庄五郎宅まで94軒あります。それらを均等に並べて現在の地図と重ね合わせて見ました(図1-7)。この4つのポイントはほぼ合致しています。さらに面白いことは、ビルの幅が1軒1軒の間口の幅とほぼ一致していることです。1軒あたり6mあります。江戸時代でいうと3間から3間半です。これは非常に興味深いことであると思います。

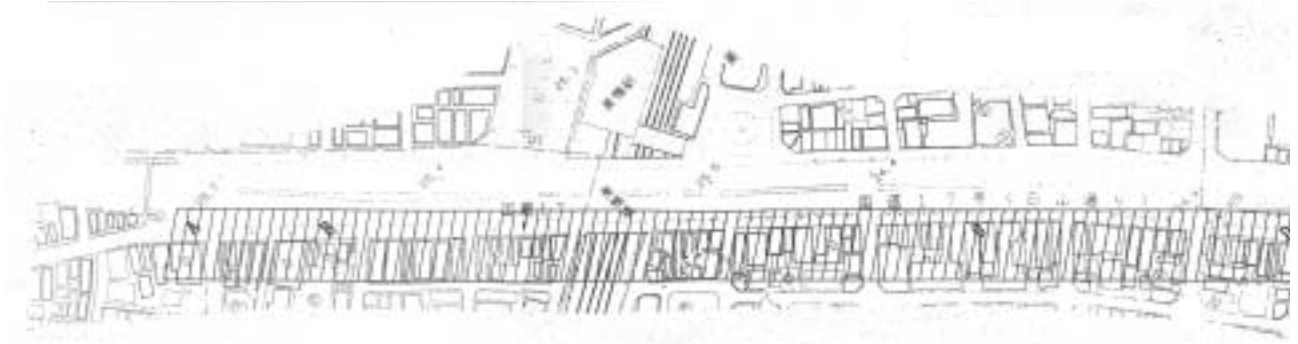


図 1-7 現在の地図との照合

巢鴨町の住人で61%の店が店借です(図1-8)。江戸の町中でも、大店でも店借であることは珍しくなく、店借であるからといって貧乏であるとは言えません。家主というのは大家さんで全体の11%を占めています。一番上の地権者が家持という人で、これも全体の11%を占めています。地借というのは自分の家だけれども、土地は他人のものを借りている人のことを言います。これが全体の6%を占めております。このような結果も絵図から読みとることができます。以前、先程述べました保坂四郎左衛門さんのところで発掘調査を行いました。ところが植木屋の跡があるかと思っていたところ、大量の茶碗が出てきて、隣の飯屋を掘ったものと判明しました(図1-9)。遺跡の発掘調査と絵図がぴったり一致する興味深い事例となりました。発掘調査では文献調査ではうかがい知れないことがたくさん出てくるということで、発掘調査は非常に重要であることがわかります。巢鴨ではたくさんビルの建て替えが行われていますが、遺跡の発掘調査や文献調査をうまくすり合わせることで、また昔の巢鴨町の実態が浮かび上がってくるのではないかと思います。

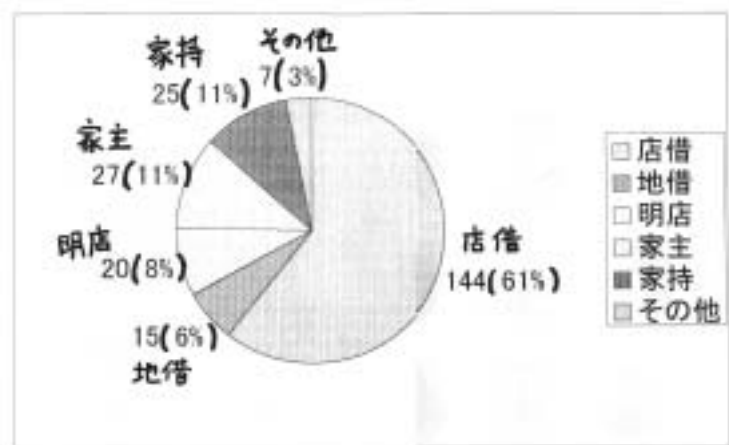


図 1-8 「巢鴨軒別絵図」に見る店の権利関係

(4) 終わりに

まず、「巣鴨町軒別絵図」によっていろいろな情報を得ることができるようになったということは、巣鴨の幸運として挙げていくべきことではないかと思います。次に考古学発掘についてですが、ここは巣鴨遺跡ということで、埋蔵地域に指定されています。ビルの建て替えが起こる度に遺跡がどんどん発掘されています。その発掘によって得られた情報は文献ではわからない、貴重な情報となるのです。三つ目が現在の地域的なつながりです。今の巣鴨のまちの方々の活動を拝見しますと、おもてなしの町として非常にうまくやっておられると思います。ですからせっかくある文献資料や考古学の遺跡、地域のつながりをうまく利用して頂いて、巣鴨の更なる地域的な新しい発見ということについて PR なさって、新しいまちづくりを試みていってはどうかと思います。

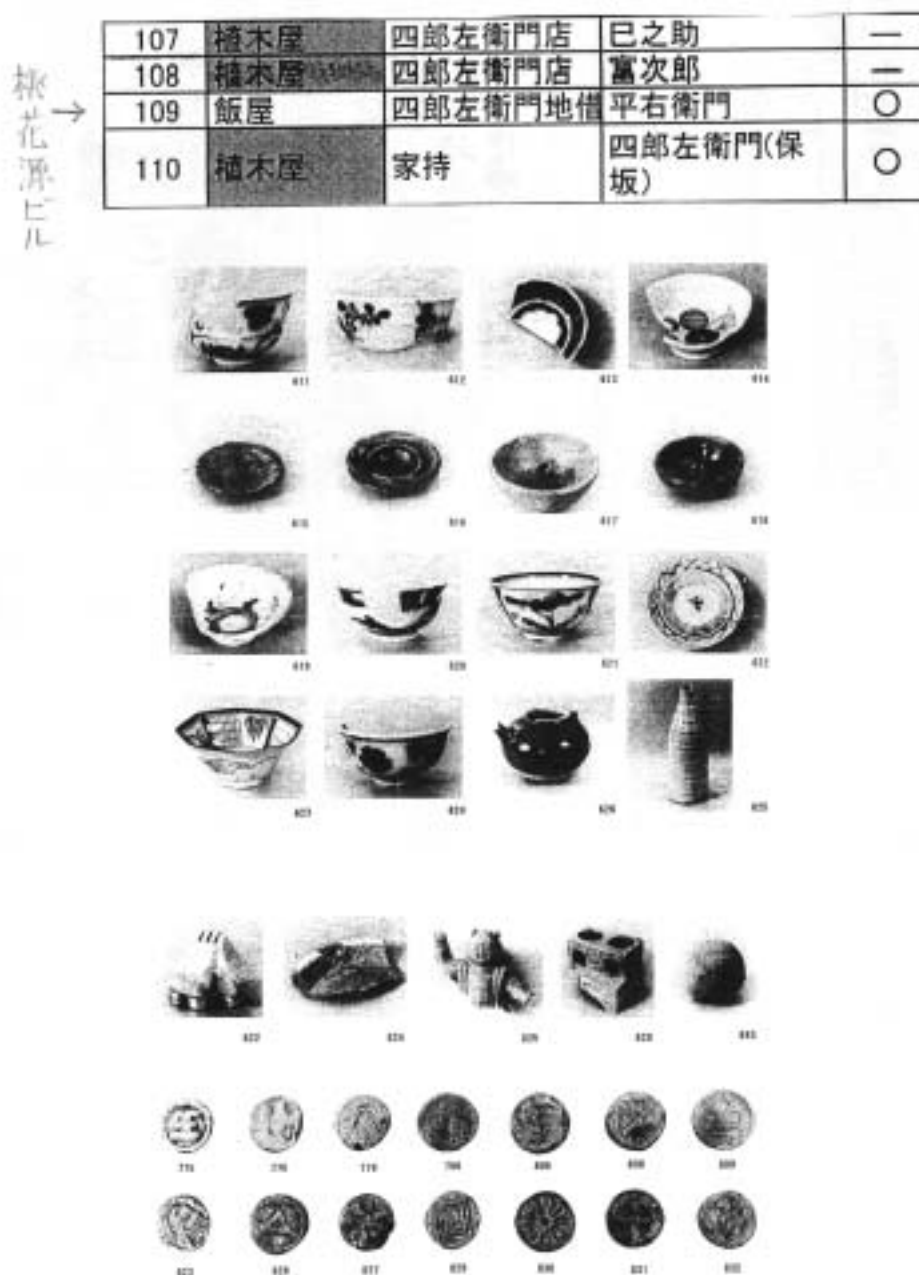


図 1-9 発掘調査で見つかった茶碗

【「巣鴨街並みの変遷と今」(明治から現在)】

(株)修景社代表

辻野 五郎丸

(1) はじめに

最初に掲げさせていただきますこの絵(資料-1)は、昨年亡くなられた玉木さんが描かれた、地蔵通り入口です。色々な意味で、これからの巣鴨を考える上で重要なことがたくさん入っているので最初に掲げさせていただきました。すでに地蔵通り入口部分は、国道拡幅の事業用地として空地となり、広場になっています。そここのところに灯籠のような象徴的な古いものを置いて、昔からの地蔵通りを表しています。非常に巣鴨のおかれている昔からの温かい雰囲気を残しながら、色々なことが動いている、また、動いていきそうだという、現在の断面をうまく描かれていると思っています。

先程高尾先生が昔の話をされたので、現在まで戻ってこなければならないのですが、その前に大きな話として、巣鴨がどんな場所にあって、どのようになっているのかについて話を始めたいと思います。高尾先生が話された巣鴨の土地や生活の記憶、どこに誰がお住まいで、どこがどうなってきたかということは生活に即した見方です。この見方に対して、一つの街並み全体として、どのようなことが起こってきたのか。中山道ができて、あるいは山手線ができて、地蔵通りになってと色々な歴史を経ています。もう少し引いた目を見たときにどのような土地柄で、どのようなことが起きてきたのかを考えることも非常に大切であると思います。そこで今日は、鳥のような目になって大きな観点から巣鴨とはどのような場所であるのか、都市の記憶を探って見たいと思います。それから、どんな形で今まで巣鴨が出来上がってきたのかということをお話させていただきます。最後に昨年度の「巣鴨まちづくりワークショップ」で、8チームの若い方々がどのように提案なさったのか。またそれを町の人たちがどのようにまとめようとしているのかについてお話させていただきます。

(2) 鳥の目になって巣鴨の都市の記憶を探る

まず、大きな目で関東地方と巣鴨との位置関係を確認しておきます。コンピュータグラフィックで描かれた鳥瞰図で見ると、利根川、荒川、多摩川が大きな地形をつくり、ちょうど巣鴨は都心のぎりぎりのところにあります(資料-2)。

日常的に天気予報のベース図などに使われる衛星

すがも中山道祭り — 巣鴨街並みの変遷と今、そして未来へ —



現在の巣鴨地蔵通り商店街
(絵: 玉木利弘)

資料 - 1

生活の記憶と都市の記憶

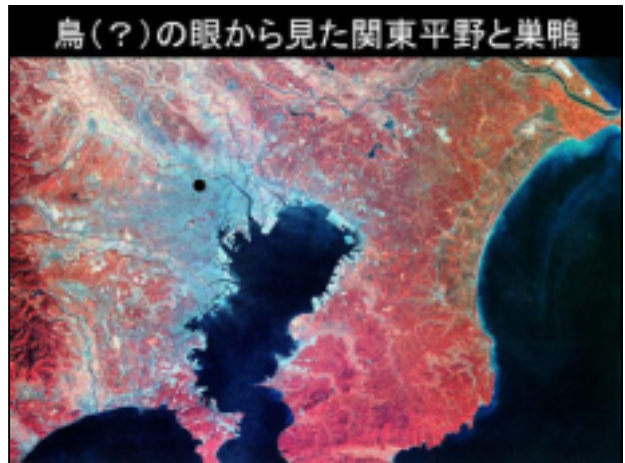
— 虫の眼から生活の記憶を探る(承前) —

1. 鳥の目になって巣鴨の都市の記憶を探る



資料 - 2

写真(資料-3)を見ると、もう少し位置関係がはっきりしてきます。川筋をたどりますと、荒川水系が流れていまして、岩渕水門というところで分かれて、江東のデルタ地帯の西側に隅田川が流れています。それから西南に武蔵野台地が広がり、巣鴨は台地の北側に位置しています。又、巣鴨周辺の台地には細長く低地が入り込み、地形的にも特殊なところです。この衛星写真にはいろいろな情報が入っているので地形の構造などはかえって分かり難い側面もあります。



資料 - 3

次の図(資料-4)は、関東地方の水系だけを抜き出したものです。この図を見ますと、北関東の中心部に利根川から江戸川に連なる大きな水脈が流れているのが分かります。さらに北関東には、鬼怒川、小貝川に連なる水脈があります。この流れは霞ヶ浦から、銚子のほうに抜けていきます。関東の北側は大きくは、鬼怒川、小貝川系統の流れと利根川と江戸川の流れがあることがわかります。さらに、武蔵野台地等を開析する支川の水を集めた荒川・隅田川の水脈があります。巣鴨はこの水脈の武蔵野台地を開析する支川に挟まれた場所に位置します。また、台地の南側には、やや独立したかたちで多摩川が流れています。



資料 - 4

我々がいる巣鴨という場所を水脈から見ると、台地の北側を開析し荒川・隅田川に流れる支川に挟まれた場所に立地しさらに、荒川・隅田川から利根川・小貝川が流れる北関東の平野と連なるとともに、南側は武蔵野台地を経て多摩川にいたるといような位置にあります。

徳川幕府が開府された直後に、江戸の発展に結びつく河川に関連した大きな事業が二つ行われました。一つは「利根川の東遷事業」です(資料-5)。これは、昔の利根川筋で東京湾(旧江戸湾)に流れていた水脈を、銚子の方まで持っていこうという事業です。何を目的として事業を行ったのかといいますと、一つはこれだけの水脈があるところですから、洪水で溢れた水を銚子の方まで流し、この水をうまく使って新田開発を行いたというのがありました。二つ目は舟運です。銚子の方から東回り廻船で入ってきて、江戸まで船を通しました。三つ目が、利根川筋の洪水



資料 - 5

から江戸を守るためです。四つ目が伊達藩を初めとする東北の雄藩からの防衛を目的としていたと言われています。これらの事業は後々、巣鴨の発展にも大きく関わってきます。

もう一つの事業が「玉川上水と分水の開削」です（資料-6）。これは、多摩川の水を武蔵野台地に堰あげ江戸市街に上水を供給しようという事業です。ただ単に上水の供給だけが目的ではなく、台地上の新田開発など江戸の近郊農業発展に非常に大きな影響を与えた事業です。北関東の大きな水脈の付け替えに伴って新田開発と舟運の大きな流れができ、また一方では、玉川上水により台地の新田開発が進み、それが様々な地域開発に貢献してきたのです。巣鴨は中山道という宿場町としての性格のみならず、この二つの水に関連した事業とも密接に関連しながら発展したと見ることができます。

これは北関東の舟運及び街道と河岸を表した地図です（資料-7）。舟の道は、銚子から利根川に入ってきました、関宿のところまで遡りさらに、江戸川を下り、行徳から新川に入ってきて、両国に至ります。両国からは小名木川を経て隅田川に入り新河岸川で川越へ、或いは荒川を遡り熊谷下流まで連絡します。巣鴨は荒川と中山道が交差する位置に設けられた戸田河岸からすぐのところの位置しており、街道と通じてこの河岸と密接に結びついているのです。逆にいいますと、巣鴨の諸々の青物等も含め、様々な物資が舟運と街道を通じて江戸市内へと運ばれていったのです。そういう意味でも巣鴨は江戸と近郊の物資交流の重要な拠点となっていました。その背景にはこれだけの膨大な舟の道が開発されていたことを見逃すことができません。

一方、玉川上水は羽村から取水しまして、最終的には四ツ谷まで引き、さらに江戸城に入るというルートをとっています（資料-8）。現在の西東京市の上保谷付近の玉川上水から分水しているのが千川上水です。千川上水は中山道と交差する上水公園のあるところまで導水され、ここから今の中山道へ行くルート、さらに分かれて六義園に引かれた後、本郷通りを経て江戸市街地へ入るルートが整備されていました。

江戸の市街地まで水を引くということは、どこからか水を取水しなければなりません。当然低いところから江戸城の高いところまで水を持ってくることはできませんから、台地の一番高いところよりも高い地点まで多摩川を遡って行かなければなりません。取水地点である羽村堰から四谷大木戸まで約 40km、武蔵野台



資料 - 6



資料 - 7

地に水をうまく引き上げるため、扇状地状の台地を斜めに横切りながら、荒川・多摩川の分水嶺まで導きます。これは大変な技術を要します。分水嶺まで引き上げられた水は台地上の細かい尾根筋をたどり荒川水系と多摩川水系全体に分水されます。この中の一つである千川上水は、五日市街道沿いの西東京市上保谷から荒川水系の方に水を流して、この豊島台のところまで引いています。一方では石神井川、もう一方は神田川の方へ流れます。石神井川の合流する所が飛鳥山となります。石神井川はもともと台地を開析し、本郷台の間を抜け下谷の方まで流れてきていました。それを飛鳥山のところで堀割って隅田川へと流したと言われています。巣鴨と石神井川とは千川上水を介して密接に関係しています。

玉川上水は江戸市街のための給水だけではなく、流域変更しながら多摩川の流域の水をうまく勾配を取りながら、荒川水系までもってきて台地全体を潤していました。その水流の江戸市街地に入る境界部となる場所に巣鴨は位置しているのです。

改めて、川と巣鴨の関係を見てみようと思います。これは江戸中期の関東全体の水系を表した絵図です（資料-9）。この絵図にある隅田川の戸田河岸と巣鴨は中山道で結ばれていました。巣鴨は街道を通して隅田川の舟運と結びつき、江戸城まで交通の結節点という機能を果たしていたと見るができます。玉川上水から千川上水へ流れるという水の道、利根川、江戸川、隅田川と連なる舟の道、中山道の馬の道、これらが出会う場所が巣鴨であるという理解もできると思います。



資料 - 8



資料 - 9

（３）中山道と巣鴨の変遷

明治 18 年（1885）に、日本で一番最初となる近代的な測量技術による 2 万分の 1 の地形図を陸軍の陸地測量部が作成しています（資料-10）。首都圏の約 100km 圏内について手書きで丁寧に作成したものです。この地図の作成された、明治中期までは江戸時代の町や村の様子の面影が残っていたのですが、この後すぐに首都東京の整備のため大きく変わっていきます。そういう意味でこの地図というのは江戸の様子を非常に色濃く残した図面です。



資料 - 10

もう一度上水図で千川上水と巣鴨の位置を確認しておきます（資料-11）。上保谷から分水して約 22km の道のりで、上水公園まで引き、中山道の流れ、六義園に入り、六義園から本郷通りに入って江戸城へ入っていったというのが分かります。これに対し、明治中期の地形図では、新たに飛鳥山に向かう水路が記載されています、これは、慶応元年（1865）に滝野川に反射炉建設のための新たに堀割った水路です。もともとの中山道の水路は暗渠となり地図上には現れてきません。



資料 - 11

これらの上水と道路、台地と低地、もともとの自然の川の流れの関係をもう少し明確にしたのがこの図です（資料-12）。上水は自然の位置エネルギーだけで流すことを基本としていますから、台地の高いところへ導水し、さらに低地の必要なところに向って分水します。巣鴨周辺では中山道に沿う台地の尾根筋に流し武家地周辺に給水することが重要な役割の一つです。他の用途としては、畑地や台地の新田開発或いは恐らくは染井等の園芸用の水として使いながら、最終的には谷端川等の自然の小河川沿いの水田の養水となります。これはどういうことかと言いますと、多摩川から引いてきた水をさらに川に落とすことによって、全体的な水量が安定してくるということなのです。ですから、玉川上水と分水のシステムというのは、上水としての役割に留まらず、台地の新田開発や低地の水田の水量の安定化を図るために、非常に大きく貢献したのです。

一方、明治期に入ると、千川上水を反射炉建設、後

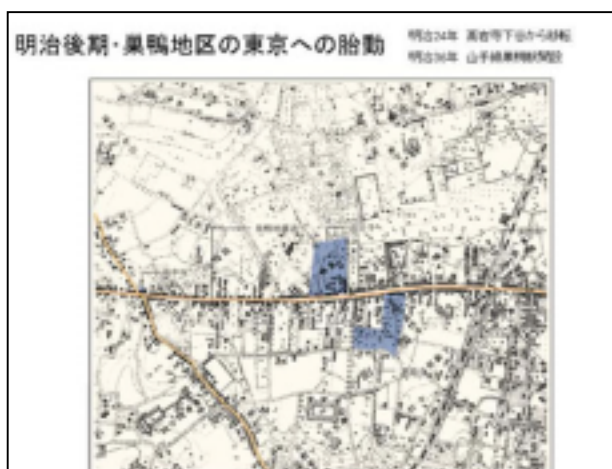


資料 - 12

に紡績工場のために滝野川の方へ導水するといった工業用水としての利用も始まり、千川上水と滝野川・王子や巣鴨周辺の町や村の関係も大きく変化します。

一方、明治中頃になると東京の中心市街地の整備が急速に進み、関連して明治 24 年（1891）下谷から高岩寺様が巣鴨に移転してこられるなど、中心市街地の整備に間接的な影響を受けながら巣鴨の変貌が始まります（資料-13）。明治 36 年（1903）には山手線の巣鴨駅が開通しております。又、明治 44 年には王子電気鉄道の飛鳥山・大塚間も開通し隅田川沿いの工場地帯とも密接に関連し始めます。

現在の巣鴨で商いをしている方はこの頃に中心市街地から新たに巣鴨に移転してきた人が多かったようです。そのようにして巣鴨は新しい郊外としての発展という可能性が徐々に見えてきます。つまり、高岩寺様の移転は東京の中心市街地の拡大と、郊外部の新しい展開という影響を受けた巣鴨変貌の先駆けであったと見ることもできます。



資料 - 13

これが当時の面影を残した写真です（資料-14）。人力車や路面電車など様々なものが輻湊し始める時代になってきます。中心市街地に接した場所で、いろいろな人と物の交流が多くなり、しかも都心や王子方面とのつながりが強くなってきます。そうするとこれまでの中山道の道路幅員だけではまかないきれないということになります。既にこの頃から中山道の拡幅計画というのが東京市の中で大問題になってきております。



資料 - 14

巣鴨周辺では、明治中頃に高岩寺様が移転してこられ、山手線巣鴨駅が開設し、都心部ともつながり、さまざまな交通網が発達することで賑わいを見せるようになりました。一方では、商店街においても露店商の誘致することにより新しい商店街の形成が始まってきました。大正初期から地蔵通りの商店街の形成がようやく軌道に乗りかけていた大正 12 年（1923）に関東大震災が起こったのです。

震災後の復興事業により中山道は従来の約倍の 12 間半の幅員で計画され昭和 3 年（1928）に竣工します。現在の地蔵通り周辺では、旧道を拡幅することが難しいことから、高岩寺様の裏側に国道を通すバイパスとして整備されました。これをきっかけに、国道には都電も走り、交通のメインとなり、一方地蔵通りは歩行者を中心とした参詣道としての性格が強くなり露店商とあわせ商店街は賑わいを見せ、第一期の地蔵通り繁栄期を迎えます。

戦前に繁栄した地藏通り商店街は空襲により全焼してしまいます。その後、いち早く闇市を含めた店舗が復旧、賑わいを取り戻します。写真は戦災後の昭和 27 年（1952）頃の巣鴨駅周辺の様子です（資料-15）。また戦後には、もう 1 度中山道を拡幅しようという大きな問題が起こってきます（資料-16）。戦災復興計画において、巣鴨駅前が 50m、現在第 3 期の工事が行われているところが 40m 拡幅されるという都市計画決定がなされます。



資料 - 15

昭和 30 年（1955）頃から参詣客も増加し始め、戦後の闇市的な様相から徐々に日常的な買物と参詣客への対応が混在した時代を迎えます。

その後、昭和 45 年（1970）頃になると一方では近隣にスーパーマーケットなどが立地したことなどを背景として新しい参詣のお客さまのおもてなしを基本とした街づくりが始まります。この結果、マスメディアの注目もあり参詣客は急増、高岩寺様と真性寺様の地藏信仰と結びつきながら、商店街は第 3 期の黄金時代を迎えます。



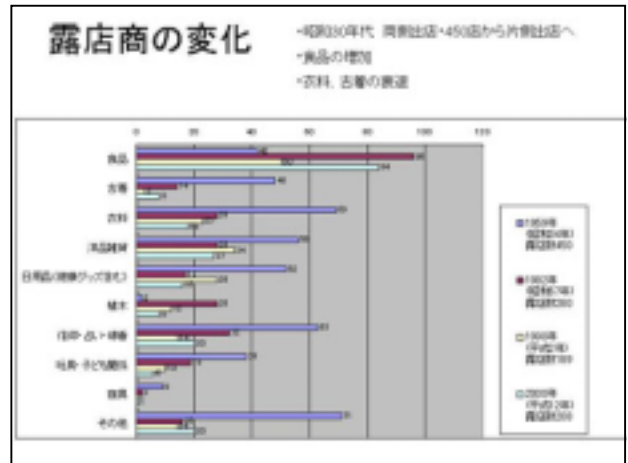
資料 - 16

それでは商店街がどのように変わってきたのかということ、昭和 30 年代と平成 12 年の 2 つの時代に店舗数について見ていきます（資料-17）。現在と比べて何が一番変わっているのかというと、食料品や衣料品が減ってきて、飲食店増えています。つまり、商店街の全体構成は、日常用品の街から食料品や衣料品という買回り品の街の性格が強かったのです。昭和 60 年頃から大型のスーパーマーケット等立地の影響もあり全体として急速に買回り品を中心に商品構成へさらに、衣料品等もお年より向けの様々な商品を開発することによりさらに露天商の低価格な商品提供とあわせ、様々な魅力を引き出してきたのです。ところが近年では急速に飲食店の数が多くなり商店街の性格も変質しつつあります。

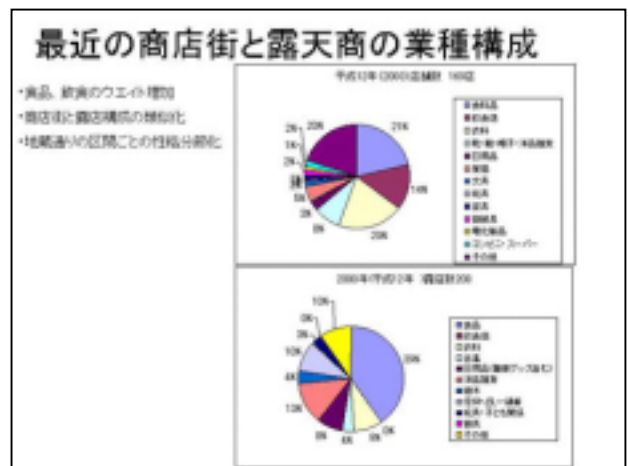


資料 - 17

一方、露天商もいろいろな形で変わってきています（資料-18）。昭和 30 年代というのは、400 以上もの露天がありました。これは地蔵通りの両側に出ていたものです。それ以降、当然お客さんが多くなってきたので露天商も片側だけの出店となります。露天商の扱う品目は、昭和 30 年代と比べると衣料品などが少なくなり、逆に食品が一番増えています。洋品雑貨は横ばい状態です。しかし衣料関係については、最近では庚申塚の方で古着屋さんが見られるようになったので、少しずつ回復傾向にあるのだと思います。但し大きくは、露天商の全体の構成と商店街のお店の構成がだんだん食品にシフトしてきていることと同じような傾向が見られます。ある意味では様々なグッズや生活用品が出回っていたものが、少しずつ食品にシフトしていつているようです。また、食品といっても生鮮食品ではなく、健康食品等が増えていることが特徴です。全体で食品関係に特化している街になりつつあるということが考えられます。このことから、この街の最近の傾向が一つの問題といえますか、課題をはらんでいるのではないかと思います。また、最近の商店街と露天商の業種構成について調べてみました（資料-19）。比率からしますと、食料品が約 40% 近く占めており、全体として露天商の業態と商店街の業態が非常に似てきています。近年では在庚申塚の方から地蔵通り入口まで区間ごとの生活や街並みも大きく変わっております。そのこともこの街を考える上で非常に大きな問題であると思います。



資料 - 18



資料 - 19

（４）巣鴨まちづくりワークショップの報告

巣鴨という街は、これまで幾度かの大きな都市の構造の変化に対応しながら発展しつづけてきました。

最近ではまた、新たに非常に大きな問題が派生し対応が迫られています。一つは、多くの人がこの地蔵通り商店街に来るのですが、あまりにも人が多くてかえって買い物がしづらい、つまり、来訪者に対し商店街全体のキャパシティやインフラが追いつかなくなっている傾向があります。ですからお客さんは来るのだけれども、実際に買っていかれないし、お参り



資料 - 20

もゆっくりできないという問題が出てきています。二つ目は、このような時期に国道の拡幅問題が出てきたということです。これは全く関係のない話ではないのです。一番初めの木崎理事長のお話にもありましたが、国道の拡幅事業の事業認可がされたというのはある意味では、発展する巣鴨が次の時代を迎えるための大きな問題提起をはらんでいると思われる。当然、この拡幅に伴ってまず何を直さなくてはならないのかが問題となります。この問題をきっかけに街づくり協議会が設立されました。国道が拡幅されれば高岩寺様のトイレがなくなる、あるいは



資料 - 21

国道沿に新しい商店街が形成される、地藏通りと新しい道との関係はどうなってくるのかという様々な問題が発生します。今までは裏側の通りの方がウエイトが高くなる可能性が出てくるということで、最低限の地藏通りに対する修復事業から新しい街づくりの可能性を考えていかなければならないのではないかと協議会で様々な議論を重ねてきました。その中で、地元の人々や街づくり協議会、商店街の人々の努力により、商店街入口部分が道路用地として買収されたところを、暫定広場として借り受けて管理するところまで展開してきました。

しかし、このような用地買収が進み具体的な街づくりの在り方を考えるとき、これまでのように一つ一つの問題への対応だけでなく、長期的に街づくりをどのように考えていくのかももう少しおおきな視点にたったビジョンを抜きにしては議論できないと思います。

既に豊島区の中では、巣鴨と大塚を含めた中心市街地の活性化の方策が検討されています。今の巣鴨地藏通りの枠を超えたレベルで活性化計画が起ころつつあるのです。

今我々は、将来の街づくりをどのように考えていかなければならないのかということを議論する段階までできています。

このような考えで、少し広い形で若手の都市、景観など専攻、専門としている方々に呼びかけ、この問題をどのように考えていくべきか提案いただき、それをもとに意見を集約することを目的としたワークショップを開催しました。

地藏通りの入口部分は、中山道が残っている部分に真性寺のお地藏様が表を向くようになっています。ところが拡幅事業によって、入口部分の設えが全く変わってしまいます。入口部分のあり方を考えることで、商店街との繋ぎ、あるいは奥の商店街の設え、回遊等の考え方に繋がってきます。入口部分を考えることが街づくりの大きなポイントになってくるだろうと考えています。このため、若手の方々には特にこの部分をどのようにするかについて考えてもらいました（資料-21）。

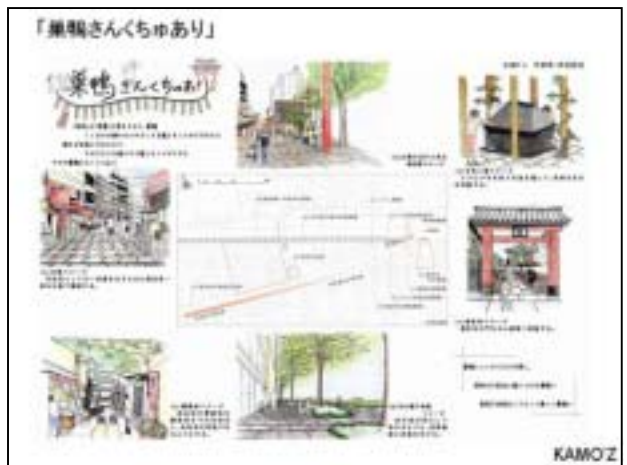
ワークショップでは、東洋大の内田先生、浅井先生、千葉大の木下先生に講師として参画して頂きました。また、建築や都市計画に興味のある方で、学生チーム 5 チーム、社会人の方 3 チームにそれぞれご提案を頂きました。地元の方と何度も意見交換を行い、最終的にそれぞれのチームで解決方法を出してもらいました。若い人がどのような提案をされたかを簡単にご説明したいと思います。

まず、「ひとみち」ということで、「巣てきでいい鴨研究会」という学生チームの提案です（資料-22）。基本的には、中山道から地蔵通りの入口というのは、歩行者のルートとして造ればいいのではないというのがコンセプトになっています。車のルートは歩行者と分けてしまい、交通規制は車道の入口部分で行います。現在の真性寺様の前から地蔵通りへの入り方が非常に複雑になっていますので、この部分は歩行者の道としてきちんと旧中山道のイメージを残し、強調するために樹木を使います。その脇にバス停を持ってきて、新しさの中に古い道を残しながら、道路処理を行い、さらに結節点を作ろうということです。また、地蔵通りの反対側から渡ってくるルートを現在の都営三田線に新設されるエスカレータを使って流していきたい。また、白山通りの歩道なるべく広くして、部分的に並木があったほうがいいのではないかと具体的な提案をしています。



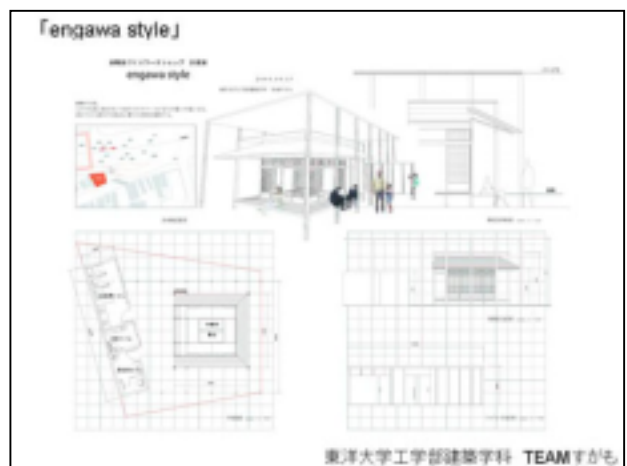
資料 - 22

この KAMO ' s も学生チームです（資料-23）。このチームはまず、交通の流れよりも、現在の歩道拡幅に伴って出来る三角地部分と真性寺さんの入口に山門を造って広場と一体的に見えるようにしようではないかということ。次に、白山通り側はある程度都市化された整備を行い、地蔵通り側は石畳にして、レトロな感じを出すようにしてはどうだろうかということ、また、お寺の入口の点景として、手水があったりしてもいいのではないかと提案をしました。つまり、ひとつの大きな構造を変えるよりは、白山通りと地蔵通りのデザインを変えていく、真性寺様と地蔵通りの関係をうまく繋ぎ、その中に一つ一つ街のイメージを表すきれいなものを入れていく、さらに街路樹の辺りにしても、丁寧なデザインをし、街の中を人々が歩いてくれるような環境を作り出していくということでした。



資料 - 23

これは（資料-24）は東洋大学建築学部の学生チームの提案です。非常に大胆な提案でして、先程の三角地点にこのような休憩所とトイレを作り、縁側的にちょっと腰掛けて休むというのが主な提案です。昔の



資料 - 24

立て場の近代化版ですね。この提案そのものは道路用地として問題がありますが、ふらりと来て、気楽に止まれる、あるいはトイレも一緒に設置出来るスペースはどうしても必要になってきます。ここが相応しいかは別として、昔の縁側を思い出させるような、仕掛けというのはどこかで欲しいと思わせてくれる提案です。

このヤングリーブスも学生チーム（資料-25）です。いろいろなことを提案しているのですが、なんと言っても、全体のコンセプトが「ぶらり・お参り・ゆったり 巣鴨」ということで、商店街の方に非常に気に入っていただき、商店街のキャッチコピーとして使おうということになりました。この街の今後を考える上で非常に重要なキーワードを出してくれました。具体的には、駅前からずっとシンボルが繋がって人々を誘導できるようにする。木を植えてゆっくりと休める空間を作る。街角に小休憩スペースを作る。というような細かい仕掛けを作りながら、全体の街づくりを行っていかうという提案が出されました。また、巣鴨にもっと分かりやすい地図を作ってはどうかという提案を出してくれました。巣鴨がいい街だということが直感的に分かる地図がまだ無いと思うので、歴史も含めてこの街の色々な味わい深さが分かるようなものを考えてはどうかと提案されました。街にとっても非常に重要なアイデアだと思います。

このチーム（資料-26）は、「巣鴨の流れに身をまかせ」ということでグラフィックデザインなどを専攻としている学生チームが提案しました。一つ一つの提案としては、歩道に色々な仕掛けを作り、入口部分に休憩スペースやトイレを持ってくるなど色々な提案を行いました。

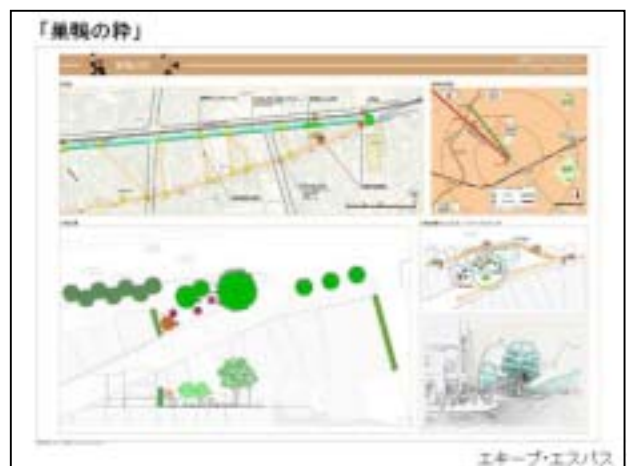
これは（資料-27）、ランドスケープデザインを専門とするプロのチームの提案です。六義園や飛鳥山、染井などの歴史的な緑の拠点と大きなグリーンのネットワークを考えていくべきだとしています。入口部



資料 - 25



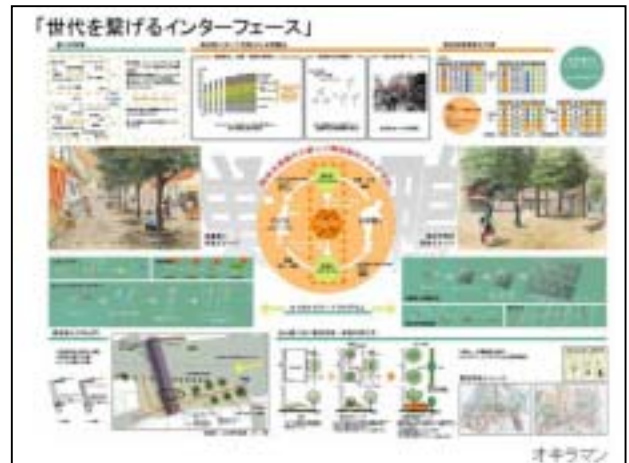
資料 - 26



資料 - 27

分は下手なデザインをするよりは、元々の染井、巣鴨の植木商が多く見られたというイメージを残す植栽計画を行い、樹木を育てながら共生する街を考えたらどうかという提案をしています。「巣鴨の粋」ということで表現されていますが、このような元々の植木商のイメージ、巣鴨染井が持ってきた近郊の、園芸の発祥の地というイメージを残して、大名庭園、飛鳥山、染井を併せて考えていくべきだという提案です。

このチーム（資料-28）はランドスケープデザイン、建築、デザインなどを専門とする各分野の若手が集まったプロのチームの提案です。今の巣鴨が「おばあちゃん原宿」ということで、そのままの集客構造が繋がっていくのかという疑問から、むしろ新しい世代を越えた交流、お孫さんと一緒に活動するとか、子供とお年よりが一緒になって行う街のプログラムを考え、その中で街の発展を考えるべきだという提案が出されました。具体的なアイデアは、縞鋼板の提案、ホンコンフラワーとバナーの使い方等様々な仕掛けを提案しています。さらに、入口部分に巨大な山門が描かれています。アイキャッチャーになるような大きな山門を造る提案です。これにはどのような意味があるかについては、このチームの鶴島さんにおいていただいているので、この意味も含めて後ほどご説明いただきます。



資料 - 28

このチーム（資料-29）は、ランドスケープデザインを専門とするプロのチームです。全体的な地域的広がり一つ一つのランドスケープのあり方を丁寧に取り組んでいただきました。一つは、真性寺様と前の入り口部分の三角地をうまく一緒にデザインしていくという提案です。真性寺様は非常に緑が濃くなっています。二つ目は高岩寺様の方にも、少し緑を配置しようという提案です。三つ目が分庁舎周辺には新しい広場を作り、周りもケアし合い、さらに市場の方にも伸ばせるような展開まで考えたいということでした。それら全体をネットワーク化するというで新しい巣鴨の部分が出せるのではないかと「巣鴨未来草子」というテーマで地域的な広がり、入口部分に捉われないで、大きな構成の中で一つ一つの空間を丁寧に解いています。恐らくこのプランは、巣鴨の大きな展開のための骨格となるプランではないかと考えております。



資料 - 29

(5) まちづくりの提案と提言の方向

各チームがご提案されたことをもう一度協議会の中で整理をしました。この中で出てきたものは、まず一つ目は、国道拡幅に合わせて地藏通り入口を街の顔としてデザインしていく必要があるということ、真性寺様の入口、特に広場との入口一帯を新しい顔として作っていくということです。

二つ目は、街の容量を大きくするため、分庁舎周辺に新しい街づくりの拠点を考えることです。

三つ目は中央卸売市場の方も今後どうなっていくかで、街づくりとの連携を図ることが重要であるということです。さらに、今まで道路拡幅事業により街が分断されてきたこと、この街が小さくなってしまふことが懸念されるので、いっそのこと染井の方の新しい展開と結びつけながら巣鴨と一体的な地域展開を図っていくべきではないかということです。

さらに、分庁舎周辺と高岩寺様を連絡するまちのあり方を考える必要があります。

真性寺様と入口部分、高岩寺様周辺、分庁舎とその周辺、この3つの拠点を繋ぎ、国道の歩道、或いは地藏通りで全体の回遊性をつくり出して行くこと、さらに、回遊性が出来ることによってそれぞれの路地が非常に重要になってきます。路地のデザインをきれいにして、商店街の活力を増す工夫をすべきなのではないかと思います。

以上のように整理できていると思っております。さらに、このようなハードな問題だけではなく、もう少し、先ほど若い方々が出された、ソフトの提案、おもてなしの戦略を具体的にどうするかという話がどうしても出てきます。重要な課題ですので、この問題も一緒に解きながら提言の方向性が決まってくると思っています。

国道拡幅工事は巣鴨の街づくりを考える上で、何回目かの大きなきっかけ、転換点になるかもしれません。ここ数年間この街をどうしていくかを真剣に考えて、新しい街の発展を考えることが大切になると考えています。長い時間ご静聴ありがとうございました。



資料 - 30

(3) パネルディスカッション

「巣鴨の将来像」－中心市街地活性化事業と街づくりの方向を巡って－

コーディネーター : 辻野 五郎丸

パネラー : 内田 雄造 (東洋大学教授)

宮崎 牧子 (大正大学助教授)

高尾 善希

齋藤 賢司 (豊島区商工部長)

鶴島 孝一 (オキラマン・ワークショップ参加チーム)



辻野：これまでの巣鴨の歴史に関する講演、ワークショップの提案などを踏まえて、今後の「巣鴨の将来像」について考えて見たいと思います。まず最初に、現在豊島区が中心になって進めております、「中心市街地活性化基本計画」について齋藤部長さんからご説明と話題提供をして頂きたいと思います。



齋藤：地区の現況や市街地整備の色々な課題については今日のお話の中で出てきていると考えています。人口の構造といいますか、現在は団塊の世代の方々が地域に居られるという事が、大きな社会的課題として捕らえております。そういった方々が引き続き巣鴨にお越し頂ける区でありたいと思うのですが、色々な問題を見ると、そうならないのはいかという危機感があります。我々も色々なデータを当たってみました。商業上の様々な統計を見ますと、巣鴨の地蔵、西巣鴨、駅前、大塚それぞれの地区

ですが、商店数、従業員数、年間販売額、特に年間販売額数は大きく落ち込んでいます。それから、市街地整備の問題もあり、お話に出なかった中には、例えば、巣鴨の駅舎の改修計画なども課題になっております。もう少し目を広げて、大塚の駅の南口と北口を結ぶ通路の築造、駅舎の改修計画が持ち上がっています。こうした市街地整備上のさまざまな動きに合わせて、商店街の将来をしっかりと見据えていく受け皿、

仕組みが必要だろうということです。準備を始めたのは、平成 15 年からではありますが、昨年 16 年から関係者の方に参画を頂きました委員会を作りまして、中心市街地活性化の基本計画を策定させていただきました。3 月 22 日に策定をしたわけで、出来たてでございます。計画期間を概ね 5 年以内から 10 年を超えるようなものまでをカバーする計画です。国が定めた基本方針を踏まえまして、区が作成する計画です。バックになっておりますのは、「中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化を一体的推進に関する法律」という長い名前の法律があるのですが、「中心市街地活性化法」といわれます。この法律に基づいて策定されております。趣旨は、お話ししました通り、街を取り巻くハード、市街地の改善とソフトを合わせてやっていきます。今この地区におけるねらいをお話ししましたが、この計画を作ろう、作るべきだと考えました理由を三点ほどにまとめて、簡単にご説明したいと思います。

まず、この地域に財源を含めたものを集中的に投入して行く必要があることです。巣鴨・大塚地区は豊島区の商業集積の多くの部分を占める重要な地区です。この地区の商業を中心とした活性化なくして、区全体の生活にとっても大きな影響があるのではないかと考えており、こうした計画を立てております。二つ目は、これまで様々な商店街の振興を行ってきましたが、中々効果が出ないことがありました。そこで、活性化法に基づく事業メニューから活性化の方法を導入することです。これは、国が推し進めている制度です。この制度の念頭にあるのは、地方都市で郊外に大型の量販店などが出来て、従来からある中心市街地等が寂れてきているための対策で、巣鴨・大塚地区には若干当てはまりませんが、現在こういった制度の中で市街地の整備、ソフト面に対する支援策として、一番手厚い制度です。よって新しい道具として活用していきたいというのがあります。三点目ですが、今回の巣鴨・大塚地区は全体では約 236ha です。一方、大塚駅から雑司が谷方向に都電が走っていますが、この沿線が都市計画道路の都市計画決定されています。中々整備が進まない地区でした。木造住宅が密集している地域です。こちらは東京都の整備計画になりますが、都市計画道路の事業化が決定しました。また、星印は造幣局の土地ですが、新東京タワーの誘致を豊島区が進めております。サンシャインを中心に周辺では、高層住宅を中心にした大きな開発、新しい図書館等を組み込む計画が進んでいます。また雑司が谷付近での新たな開発構想もあります。池袋でも駅からサンシャイン方向へ新しい交通手段として LRT を導入したいと考えています。巣鴨・大塚地区の活性を他の地区に波及させることはもちろんですが、特に池袋方面との連携、相乗効果を生むために計画的な対応をしていく必要があると考えています。

巣鴨地区の街づくりとの関連で、街づくりの課題を見ると、まず、白山通りの拡幅と関連付けて市街地整備を考えていかなければならないということです。また、駅前広場の対応は区、或いは、東京都、国が管理している場合があります、交通整理等も考えると、非常に総合的な対応が必要になっています。また、公有地が散在しています。大規模なものも多いですので、それらの有効活用の問題もあると思います。具体的に何をやるかですが、28 の事業を予定しました。ここでは市街地整備改善のための事業ということです。主な制度が記載してありますが、このような国の補助制度を活用して行っています。基本的に区、都、国の 3 者から予算をいただいて行おうと考えておりますが、こうした事業を活用して、事業者が 3 分の 1、国が 3 分の 1、区と都が 3 分の 1 を分けるという形が一般的となっております。また、区や国が事業者となっていく事業もありますので、こうした補助がやりやすいという狙いもあります。また、いわゆるソフト関係の事業として、43 事業挙げていますので、ハード事業と合わせまして、71 事業、10 年間を目途として取り組んでいきたいと思っております。具体的にこのような事業を行う場合に、道路整備や歩道整備等は行政の仕事ですから、計画的に行っていかなければならないわけです。特定の施設、またはソフト事業に関しましては、タウンマネジメント機構、TMO というところが事業主体となることができま

す。今年 4 月に区と地元の商店街の方々、また巣鴨信用金庫さんの出資を頂いて、TMO になる会社を設立する運びになっています。この会社で独自に様々な事業が出来るようになります。行政でも事業を行いますが、こちらの会社でも今後様々な事業展開をおこないながら、先程の事業を行っていきたいと思っています。

辻野：どうもありがとうございました。71 の事業を進めるには、地域の方々のご協力が一番の問題になってくると思います。この中でも、ソフトの事業でいくつか、高齢者問題とも大きく関連していきます。そこで、福祉の立場から街づくりに対する注文などを宮崎先生にお話を頂きたいと思っています。



宮崎：大正大学の宮崎と申します。巣鴨の将来像を地域福祉の視点から少し上げさせていただきます。

《少子高齢社会として求められる地域社会とは》

まず、ご存知のように日本の社会は、少子高齢化社会です。その社会の中で、地域社会は高齢者の方が多くなっていくわけですが、高齢者の方が生活しやすいようにしていく。消費者の視点としても、かなりの割合で高齢者の方が占めてくることを考える必要があると思います。それから、体力的な面でも、高齢者の方が第三者の手を借りなければならない

状況にもなっていくわけです。高齢者の生活を支援していくことが地域社会に必要になってきます。少子ということで、社会全体で子供を育てていく。親だけではなく、地域社会全体が子供を育てていくという視点を持つことが、地域社会に求められると思います。このように考えますと、今まで社会の中で弱い立場に置かれていた子供、あるいは高齢者にとって生活しやすい地域社会を考えていけば、体力のある若い人たちにとっても非常に生活がしやすくなると思います。どの年齢層にとっても非常に複雑になっていくような地域社会のあり方を考えていかなければいけません。その中では、今までは体力のある働き盛りの世代を中心に社会を動かしてきた流れを、少子高齢化社会を迎えたことで転換をしていく。もっと世代間で交流をしながら、どの年齢層にとっても生活のしやすい地域社会を作っていくようなことが必要になってきます。

《巣鴨の地域》

その中で、巣鴨は地域性が重要になってきます。本日の冒頭に、個性あふれる地域をどう巣鴨の将来像の中に残していくかとありましたが、巣鴨の地域の個性がどのようなところにあるのかを大切にしていかなければなりません。まず一つは、今回の基調講演の中にもありましたが、歴史があるということです。歴史をどのように伝えていくか、残していくかがあります。ニュータウンでは求められないことです。千葉県のあるニュータウンでお話を伺ったところ、新しく出来た街は、お寺がないので、どうやって街にお寺を作っていくかということが街にとって問題になっていることをお聞きしました。歴史があるということは、今後どうやっていくかが個性として重要だと思います。それから、2 月の日経新聞の中でも、訪れたいと思う商店街として第 1 位にとげぬき地蔵を含めた巣鴨の商店街が上がっていました。「おば

あちゃんの原宿」ということで巣鴨の商店街が非常に有名になっているということです。20 年経ち、高齢者が多くなってく中で、高齢者の方が楽しめる商店街として発展してきたということです。高齢者の方も時代とともに代わってきますが、魅力のある地域づくりということで、どう繋いでいくかも個性として考えていくことが求められると思います。

豊島区は全体的に高齢者の人口が増加しているのですが、特に巣鴨から西巣鴨にかけては高齢者の方々が多く住んでいる地域の一つです。歴史があり、しかも長く住み続けて、地域に対して非常に愛着をもっている住民が多く住んでいる結果、高齢者の方が多い地域になっているのです。最近は土地の価格が下がったということもあり、巣鴨から西巣鴨にかけてもマンションが非常に多くなってきて、新たな住民の方々が入ってきています。しかし、やはり長く住み続けている住民の方が非常に多いので、地域を考えていく上では、長く住み続けている住民がこれからもますます住み続けていきたい地域としてどうつくっていくかが非常に重要ではないかと思います。ですから巣鴨の歴史を残しつつ地域を大切に、将来像を考えていくべきだと思います。

《将来像を考えるにあたって》

将来像を考えるにあたって、都市の視点で述べていきたいと思います。今までは人生 80 年と言われてきたのですが、最近もっと長くなりまして、人生 100 年と言うようになりました。みなさんの身近な所にも、90 歳になっても元気な方達が非常に多くいらっしゃるような時代になったわけですから、100 年生きること特別なことではない時代になってきたということです。高齢期が非常に長くなってきたということですから、誰もが元気で高齢期を長く過ごすことができるようなまちの将来像を、この巣鴨においても考えていく必要があるのではないかと思います。

東京都では高齢者の「ひきこもり」に対して介護予防ということで様々な対策が取られています。介護予防の一つとして、「ひきこもりの高齢者をつくらないためにはどうしたらよいか」という議論が盛んに行われています。ひきこもりがちな高齢者が巣鴨に行ってみようと思えるような街になっていくということも考えていってもいいのではないかと思います。それから、今までは高齢者と言ったときに、高齢者をひとくくりにする傾向が強かったといえます。法律上 65 歳以上が高齢者と言われていますが、90 歳、100 歳というような方々も高齢者といいますと、高齢者の中でも大体一世代の違いがあります。そういう意味では高齢者をひとくくりにするのではなくて、高齢者といっても年代によって関心が違うというようなことを踏まえながら巣鴨の将来像を検討していく必要があるのではないかと思います。また、高齢期が非常に長くなっているわけですから、漠然と何も考えずに高齢を迎えるということは難しくなっています。ですから、高齢期を迎える前の世代の人達にも是非巣鴨の街に来てもらって、高齢者の方と実際に接する、あるいは行動を観察するということを行ってもいいのではないかと思います。そのことから自分自身がどうやって老いていったらいいのかということを考えてもらえるような地域づくりを考えてもいいのではないかと思います。

私共大正大学の学生が、中山道の商店街を観察してみようということで、とげぬき地蔵周辺の商店街に出向いています。学生が商店街を観察していて思うことは、高齢者の方々が非常に多く訪れているけれども、休む所があまりなく、特に暑い時期は木陰がないので、高齢者の方々が休んでゆっくりする場がないということでした。また、歩道と車道に段差があるために、非常に歩きにくいということ、また、車椅子で来られた方にとっても非常に使いにくいのではないかとことや、車の通りがあるので危ないということが挙げられました。そのようなことで、是非バリアフリーの街づくりということも考えていく

必要があるのではないかと思います。施設や設備はもとより、お店あるいは街をつくっていく人々が、ソフト面においても人とのつながりの中でのバリアフリー、あるいはユニバーサルデザインの発想をもって街づくりに関わっていくということも将来的に考えていく必要があると思います。

以上のように、世代間の交流が生まれるような街づくり、あるいは、これまでも巣鴨は「おばあちゃん」の原宿」として情報を発信してきた街なので、全国的なお手本になるような文化や情報の発信ができるような街づくりというものの、将来像を考えるにあたって是非検討していったほうがいいと思います。大正大学では、2月から NPO 法人を立ち上げて、庚申塚商栄会という商店街の空き店舗を利用して地域に拠点をつくり、商店街の一員として商店街の方々と商店街をどう活性化していけばよいのか、あるいは、商店街を中心とした地域社会の中で、社会の人々とどう関わりを持ちながら大学が社会資源の一つとして、どうやって地域に貢献していくことができるのかということをこれから模索していこうと思っております。そのようなことで、大学も巣鴨の地域の中の文化や情報を発信する社会資源として、是非将来像を考えるにあたって、巣鴨地蔵通り商店街の中でも活用していったほうがいいと思います。私たちも、自分達にできることは何かということを考えながら是非協力していきたいと思っております。

辻野：ありがとうございました。歴史の話や生活の記録、基本的な福祉問題をどのように扱いながら街づくりを行っていくかということは、我々都市計画に携わる者にとって非常に重要な問題です。また西巣鴨地区のお話でもありましたが、商店街だけではなく、地域そのものが高齢化社会に対応するために新しいモデルをつくっていかなければならないのだと思います。宮崎先生のお話の中で「世代間交流」という言葉が出てきましたが、このことについてワークショップにおいても非常に重要だと取り上げていた「オキラマン」の鶴島さんにお話頂きたいと思います。

鶴島：「巣鴨街づくりワークショップ提案～『巣鴨3大新風景』」

《今後、巣鴨地区が直面するであろう三つの問題点》



今回のワークショップにおいては、地蔵通り商店街と巣鴨地区にふさわしい風景というものを模索していきましたが、まず初めにここで何が問題になっているのかということをチームの中で整理しました。

私たちはその問題点を三つ想定しました。まず一つは「商店街の集客力の減退」です。これは団塊の世代の高齢化、それに伴う地縁・血縁・信仰心の希薄化、そして客層の単一化などに起因すると考えます。

「おばあちゃん」の原宿」は結構ですが、このままいくとお地蔵さんに対する信仰ではなく、みのもんたに対する信仰みたいな形になって健康食品や健康グッズしか並ばないということになりかねないのではと感じました。二つ目は「白山通り拡幅用地の治安悪化」です。現在拡幅用地にはネットフェンスが張りめぐらされています。駐車場になって活用されているところも一部ありますが、全体としては都市の裏側的な雰囲気になりつつあって、ゴミが捨てられてあったり、治安的にも悪化していたりというような問題もはらんでいます。三つ目は「商店街の『顔』の喪失」です。やはりこれが一番深刻な問題だと思っています。将来、白山通り拡幅のために歩道橋が

撤去され、商店街入口の間口も狭い印象になってしまうわけです。私は車で白山通りを通ると、歩道橋をくぐる瞬間に巣鴨にきたなと感ずるのですが、これがなくなってさらに商店街の間口が狭くなったときに、商店街の存在感がかなり弱まるのではないかと考えます。ですから入口に小さな広場を設けるだけでは、顔として存在して得ないだろうという危惧を感じました。

以上から、私たちはこの三つの大きな問題とそれぞれ対応する3つの風景というものを提案しました。

<商店街の集客力の減退>

まず、集客力の減退についての提案です。みのもんたの健康ブームを利用するのも結構ですが、それだけだと商品が類似し、世代が単一化して街として面白みがなくなるし、また、今後団塊世代あるいはその次の世代が商店街に訪れるだろうか、という声もあります。そこでお年寄りに対し、子供という別の世代を繋ぐきっかけづくりと、それによる風景への貢献というものを提案します。

また商店街らしい風景の強化も必要だと考えます。これは必ずしも新しい街づくりだからといってモダンなものにしていくのではなく、あるいは逆に江戸時代の風景を再現するということでもないでしょう。むしろ商店街には昭和時代の産物があると考え、現状の商店街らしい風景の優れた要素をできるだけ保存あるいは活用すれば良いのではないかとという提案をしました。

さらに歩行者専用道への転換です。昼間は歩行者専用である一方、夜はタクシーが凄いスピードで走っていますが、いっそのこと歩行者専用道に転換できないかと考えます。これにより既に商店街から要望の出ている木陰や休憩施設を増やし、また夜間も安全に楽しめることができると考えました。

世代間交流のプログラムについては、お年寄りとお孫さん、その真中のナビゲーターを位置させるというのを考えております。商店街に子供とお年寄りが集めてイベントを催すというだけで継続性に乏しいため、子供とお年寄りを何か繋ぐきっかけを与えて、共に風景に貢献するプログラムを作るのはいかがでしょうかと考えました。ここでいう子供というのは、必ずしもご自分の孫でなくても良くて、近所に小学校やボーイスカウトなどもあるので各所から参加してもらえましょう。世代間交流のキーマンとしてはナビゲーターという役割を用意しました。ナビゲーターとなるべき方は、商店街の青年会の方、学生、各種専門家、あるいは街の風景に貢献するというのであれば、アーティスト、環境デザイナーの方などケースバイケースだと思います。では実際風景に対してどのように貢献するのかというと、例えばベンチなど風景の要素となるものをお年寄りとお孫さんが一緒になって作るわけです。お年寄りには知恵がある、工夫がある、アイデアがある。巣鴨にはその知恵が集結しているわけです。子供は最初戸惑うかもしれませんが、ものづくりに関しては興味があると思います。ナビゲーターはお年寄りの知恵、工夫などを子供にわかりやすく伝えてあげるために、ゲーム化あるいは現代化していきます。反対に子供と一緒に作ったものを適切に、時にはソーシャルアートとして商店街に設置し、今度はお年寄りに対してそれを記念化しながら風景に貢献していくのです。街づくりだけではなくて、お菓子屋ならケーキを作り、洋服品店だったら T シャツをお年寄りとお孫さんが一緒に作るとか、様々にお店と繋ぐプログラムの可能性を秘めていると思います。単なる一時的なイベントやワークショップでなくて、世代間交流そのものの結果が商店街のあちこちで見られる姿を期待しています。

図の一番下には、風景の要素となる具体的なアイデアをいくつか提案しました。例えば、休息空間となる植樹を植えても良いのではないかと、あるいは縞模様の段差解消の鉄板を商店街で毎年塗り替えているようなので、これも子供とお年寄りが一緒になってペイントして記念化する。さらには背くらべ柱。お年寄りは子供の成長を願っているのだから、例えば高岩寺さんの境内に柱を建て、そこに背比べ

の傷を付ける行為、そのような行為を林立する柱として美的に記念化することで、風景に貢献できるのではないかと思います。

これらのスケッチが上記のアイデアを総じて示しています。基本的には現状の昭和レトロのような雰囲気を保ちつつ、世代間交流で現れる風景の要素を追加しました。まず、歩行者専用道にすることで並木と休憩施設がつかれるでしょう。子供とお年寄りが一緒になってもものづくりをし、それを風景の中に記念化することで、もう一回孫と来てみたいという気が起こるかもしれません。さらにこのホンコンフラワー。造花のようなプラスチックの花ですけれども、これに子供と一緒に願い事なんかを書いて一面にぶら下げて、ホンコンフラワーの天井のようなものを作るソーシャルアートです。

また、先述の通り高岩寺さんの境内で背比べ柱を設置する。この絵のように林立させると面白いのではないかと思います。また初めて来た人がお地蔵さんの場所がわからないという意見を聞きましたので、お寺の境内が道路に伸びてくるというアイデアもあります。この舗装も子供とお年寄りが手型や足型をつける設えを提案しています。

<白山通り拡幅用地の治安悪化>

一方白山通り沿いのネットフェンスで囲まれた拡幅用地は長期間このままで、実際白山通りが拡幅されるまで、何年かかるかわからない。ひょっとすると10年、20年後かもしれないということを耳にしたので、これに対しては暫定利用が必要だろうと考えました。

現状は、このようにフェンスで囲まれている状態で、傍らに歩道があります。そしてこの中にゴミが捨てられている状態です。フェンス有無については管理面での判断が必要とは思いますが、必要なら一部に扉をつけて時間限定利用ができるのではないかと思います。さらに将来的に8mの緑道として整備するのであれば、今樹木を植えることができないか、ということ投げかけました。10年も経てば、例えばケヤキなら大きく樹冠を拡げます。今のうちに小さい樹木を植えておき、拡幅時には緑が成長し、リッチな緑陰空間になっているような提案を考えています。

ここに暫定利用地と道路拡幅時のスケッチを用意しました。まず暫定利用地については、必要ならフェンスを残して緑化し、扉をつけ、その中に樹木を植えます。露商や商店街のサテライト店舗などが出店できるようにも考えております。次に拡幅した後のイメージです。高層のマンションが通り沿いに建ってしまうことを想定していますが、下が商業施設、店舗となり、さらに暫定利用からの年月により樹木が大きく育って緑陰モールとなっていくイメージで描いています。

暫定利用時は極めて仮設的なしつらえで良いのですが、まずは空間と緑を育てながら利用することが大事であると考えます。土地をレンタルしながら、商店街のサテライト店舗を出したりフリーマーケット催したりして品物を売っても良いでしょう。自治体と商店街、あるいはTMOが共同で管理して、規模は小さくも事業収支のある空間利用のシステムを作る必要があります。単純に広場として開放して利用を促すだけではなくて、空間を育てて管理費用を生み出し、商店街にもサテライトとして利点がありながら、かつ将来のモールに繋げることが重要です。

拡幅後はこの絵のように樹木が育ってリッチな空間になり、低層部の商業空間も整備された状態を想定しています。時間をかけて自治体と商店街が樹木を育てていけば、その下の緑陰スペースはレンタルし得るリッチな公共空間になっているのではないかと思います。例えば屋外のギャラリースペースだとか、あるいはカフェテラスなど利潤に見合う空間になることを想定しました。

＜商店街の「顔」の喪失＞

最後に、商店街の入口についてです。冒頭で申し上げましたとおり、個人的には歩道橋が商店街の目印になっていると考えます。これが撤去され、かつ白山通りが拡幅すると、この辺までバサッと切られてしまうイメージです。こうなると明らかに商店街への間口が相当狭くなり印象が薄くなります。私たちは、商店街では昭和レトロの雰囲気、一方で白山通りは緑あるリッチな空間というように、あえて非常に対比する風景を想定しました。その2つの全く異なる風景をこの入口が強い印象で受け止めるように整備できないかと思うのです。

そこでかなり大胆ですが、もう一度、歩道橋としての機能を持たせつつ、インパクトのあるシンボルを模索し、この白山通りをまたぐ大規模な山門を提案しました。駅側からエスカレーターとして上がって、歩道橋上にしつらえたギャラリーを通して商店街に来てもらうようなことを提案しています。2つの大きな風景を取りまとめる存在で、かつ巣鴨の駅の方から、駅を降りた瞬間に見えるくらいの迫力があつたほうが、アイストップとして機能します。車や観光バスで来た人達にも「巣鴨に着いた！」というような感覚に訴えるでしょう。もちろん、何故お寺の山門のような形態なのかという議論はありますが、この真性寺と高岩寺の門前町として商店街の入口ということでこうした提案としました。拡幅によって高岩寺のトイレが無くなりますが、この中に設置できますし、今入口の辺りで案内所がない問題もインフォメーションを設けることで解決できます。さらに江戸時代から昭和までその歴史展示という要望もありましたが、これもこの回廊上にギャラリーとして提案しています。

この一番下の図は、上から見たところですが、私たちは歩行者専用道で搬入車以外は通さない提案にしているので、観光バスなどはこの門前で停車してもらい、門を通して転回できるルートも設定しました。

提案は以上です。最後になりますが、私たちは巣鴨地区と商店街が直面するであろう問題点に対して、商店街に対しては世代交流を行いながら昭和レトロのような風景を展開する提案、拡幅用地に対しては暫定利用をできるだけ早く進めて、将来的にはリッチでレンタルできる質の高い空間整備をする提案、さらに商店街入口には2つの対照的な風景に対してそれを取りまとめるシンボルとなり、トイレ、エスカレーター、ギャラリーがある機能的な山門を作る提案をしました。これらを「巣鴨3大新風景」というテーマとし、個性ある3つの風景が共存する整備提案としてまとめました。以上で終わります。



辻野：ありがとうございました。街づくりの話もだんだん具体的なアイデアが出てきました。その中でやはり、歴史を一つのキーワードとして捉えることが大切だということも再確認されつつあります。そこで、今日ご講演頂いた高尾先生に、改めて歴史から見た街づくりについてご意見を頂ければと思います。

高尾：先程お話ししたことに基づいて、今後まちづくりをどのように行っていったら良いかを具体的に述べさせていただきます。私は皆さんがお話になって

いるような現在の都市計画についてはあまり深くは考えたことは無かったのですが、代わりに基本的な私の考え方を、今日の感想も含めて述べさせていただきます。

<過去と未来をうまく混ぜたまちづくりへ>

ご記憶に新しいと思いますが、新聞で地名の問題が非常に多く取り上げられました。一時期南セントレア市の例が取り上げられましたが、南セントレアっていうのは今までその地域に全く関係ない名前なのです。空港はありますけれど。非常に未来思考が強い地名ですが、そういう地名はどうなのでしょう。未来志向は別に悪いことではないと思います。むしろなければならないと思っていますけれども、ただ未来志向だけっていうのはまずいわけです。また、私は、歴史研究をやっていますが、過去志向ばかりというのも賛成しません。大事なのは、やっぱり未来志向と過去志向をうまくあわせていくようなそういう発想が大事なんだろうなという風に考えています。本当に株の問題にしろ、国際問題とか、経済の需要が若者中心だとか、かなり未来志向の世の中になっています。やはり、過去と未来うまく混ぜる地域づくりをやっていく必要があると思われます。巣鴨の地域っていうのは、それができるんじゃないのかなっていうふうに感じました。

<巣鴨地域の遺物、遺構、絵図>

巣鴨地域は、巣鴨遺跡という埋蔵文化財の指定地域になっております。JR 巣鴨駅側の方からずっと大名屋敷が続いておりまして、その反対側は今回ご報告させて頂いたように江戸の町並地、庶民が住んでいた空間になっていたわけです。ですから、発掘調査をしますと遺構や遺物が出てきます。商店街の人たちとかと色々話をしますと、ビルを建て替えると必ず遺物が出てきてしまうというふうに、何かアクシデントがあったかのように言うわけです。また、遺構や遺物が出てくると工期も遅れますし、発掘するためのお金も出さなくてははいけない。アクシデントと軽く冗談も交えておっしゃるのですが、これはちょっと不幸なことではないのかな、と思います。本来なら、宝が出てきたと思わなければならないのです。でも、実は現状としてはあまりそういう風にはなっていません。つまり、文化財というものが地域財としてうまく使われていないという風に思います。実際今、精力的にこの辺りの地域を発掘して調査していらっしゃる豊島区遺跡調査会の皆さんも、そこらへんは問題意識が非常に先鋭でございまして、商店街さんがやっている「巣鴨百選」という小冊子に、頻繁にどういう遺跡が出てきた、こういう遺物が出てきたということを地域の皆さんに宣伝していらっしゃいます。非常に貴重なお仕事じゃないかな、と思います。

今回話の成り行きから絵図のことしかご説明できなかったのですが、巣鴨にはたくさんの遺物が出てきております。たくさんの遺物が出てきて、たくさんの遺構が出てきていますから、そういったものをまちづくりのなかになんとか生かす道はないだろうか、ということ、歴史の立場の者として提案させて頂きたいと思います。やはり、文化財を大切にしないとか、大切にしましょうとかいうわけですが、ただそれだけを言うだけではお説教か教条の押し付けにしか聞こえません。実はそういうわけではありませんが、聴く方からしてみればそういう風に聞こえてしまいます。どういう風にすれば、地域の文化財として活かすことが出来るか、ということ、研究者も地域の人たちも一緒になって考える場がないと、うまく発展的に考えていけないんじゃないかなと思います。今までのワークショップとか、そういう場でおおいに考えていって頂ければと思います。

今回発見された絵図は、偶然和宮降嫁があってこそ作成されたのです。もしも和宮降嫁が中山道ではなく東海道であったら、絵図は残されなかっただろうと思います。和宮降嫁っていうのは朝廷と幕府が

一体化する重要な行事であったわけです。絶対失敗は許されません。最初、幕府は店の名前とその店主の名前だけをよこせ、と命令をした。そのことについて、地域の方は非常に過剰反応しまして、「失敗は許されないから」ということなのか、この家は大きいとか、小さいとか、この家はどういう個性をしているとか、あるいは権利関係まで書いた。要するに幕府の命令よりももっと詳しく書いて幕府に提出したわけです。ですから、政治的インパクトをなくしては、こんなに詳しい絵図は残されなかったのではないかと思います。江戸御府内を見渡してみても、これだけ時期がわかって数多くの情報が残されている絵図ってというのはおそらくどこ探してもないのではないかと思います。巣鴨はこれによっておそらく特別な土地になったんだろうなと思います。

<遺物を活かした街づくり>

遺物を街中の風景としてどういう風に活かしていったらいいのか、具体的に考えて頂きたいわけです。私は、すぐにでも街並みにそういった情報を取り入れて、街並みの歴史博物館みたいな要素も取り入れることができるだろうと思っています。ただ、具体的にどういった風にするっていうのはなかなか難しいですけど。最低でも何屋さんのどなたがどこに住んでいるっていうのだけでも土地のプレートに落としていたりとか、商店街の店舗に昔はどういう人が住んでいたという情報を公表したり、街並みの中に、この土地からこういった物が出てきましたという遺物の展示スペースがあれば、街並みを博物館的な風景にすることができるのではないかと思います。私は、江戸時代の研究をやっているものですが、最初は江戸時代の風景がいいと考えていたのですが、これもまた不自然で、昭和ノスタルジーみたいなもので売り出したい、という地域のみなさんのご意向もあるようですから、そういったものも活かしつつ、江戸時代のものも活かしつつ、ということが重要だと思います。巣鴨に限らずどこの地域でもそうですけど、いろんな時代の累積っていうのがあるのだと思うのです。巣鴨は特に、江戸、明治、大正、昭和、平成、そして未来という要素が累積しています。それをそのまま街並みの風景にしていけばいいのではないかと、思います。世代間交流の話としても、これは昭和ノスタルジーという事で言えば、おじいちゃん、おばあちゃん方が若者に昭和の時代はこうだったんだよ、と説明することはできるかもしれませんが。さらに、若者も知らないし、おじいちゃんおばあちゃん達も知らない江戸時代の情報っていうのも、世代間を繋げる要素にはなるのではないかと、思います。要するに、どちらの世代も江戸時代を知らないで、若者も喜べるし、おじいちゃん、おばあちゃんも喜べるのではないかと、思います。こういうふうなコンセプトで江戸明治を取り入れるのもいいのではないかと、思います。昭和ノスタルジーと言っても、実は昭和ノスタルジーの裏側には江戸時代まで遡れるものがいくらでもあるわけです。たとえば、ビルの間口が江戸時代のものでそのまま使われているとか、巣鴨にはまだ江戸時代からお住まいの家系が残っていると、お寺さんも残っております。そういったものをうまく活用しながら、江戸の町並み的な名所も入れていったらすごい名所になるんだろうなと思います。具体的なことに関してはみなさんお住まいになっている人たちから教えて頂き、都市の計画の専門家の方々のご意見も取り入れれば、何かより良い物が作れるんじゃないかな、という風に考えています。それが、今考えている感想であります。

辻野：歴史の話を中心市街地の中にどういう風にとり入れて、街の活性化を図るのかということは、一つの大きな課題になると思います。また、もう一つの巣鴨地区の街づくりにおいて、昨年から大学もワークショップや菊祭りに参加しています。そういう意味での世代間の繋がり、地域の若い人も含めて、おそらく大学生や若い人たちが街づくりの次の担い手になる可能性があると思います。世代間交流の話、ま

た、地域の歴史の話とも含めまして内田先生に全体的なコメントを頂きたいと思います。よろしくお願いします。



内田：巣鴨の地藏通りの商店街というのは、やはり参詣をベースにした商店街だと私は考えています。やはり「ぶらり、お参り、ゆったりすがも」というあのスローガンはなかなか良くて、今日は齋藤部長に頂いた資料の中にも「ぶらり・ゆったり・暮らし楽しむ 巣鴨・大塚」というのがあって、感動しました。商店街の活気とある種の猥雑な美しさをどうやっても残していきたい、と私は考えています。

それと今日も上げられていた様々な問題点の中で、やはり集客力が落ちているというのが一番の問題

だと思っています。そういう面では、おばあちゃんの前原だけでいけるのかどうか。もっと NPO とか TMO とか、地域の自主的な街づくりの力を積極的に活かしていく必要があるのではないかという提案について、私はその通りだと思います。私も学生時代は本郷で過ごしましたのである程度存じているのですが、商店街は生活感が薄れたという気がします。昔はもっと生活的な商店街だったという気がします。それから商店街が地藏通りの商店街一本という気がするのです。しかも、結局駅に近いところから高岩寺までが中心であるという気がします。例えば前原の表参道が裏前原と比べて、いかに裏通りを開発しているかなどももう少し学んで良いという気が致します。それから、先ほど宮崎先生からお話された休憩空間をどういうふうにするかですが、もう少し人に優しい街並みでいいんじゃないか、という気が致します。

現在白山通りの拡幅の問題があって、それがもう既に工事が始まっているので、今後商店街としてどのように対応していくのが問題となります。結局敷地の形態が変わったりして、建築基準法上で建築の高さなんかもばらばらになってくるかもしれません。そういう問題をどうするかということで、その辺りのことも考えていく必要があるだろうと思います。あるいは、白山通りの多くが将来的には表通り化するというのも考えられるわけであって、それに対して今の地藏通りの商店街をどのように位置付けていくかということを考える必要があるだろうなという感じです。それから齋藤部長の方から中心市街地活性化の計画をきちんとお話頂いたわけですけど、こちらの地区の立場からすると、やはり結局 TMO、まちづくり会社を作られるというお話ですが、地域のやる気があるところから行政はバックアップしてくださると思うのです。ですから、空家が発生したときとか、暫定利用の空間をどううまく活用していくかなんかも TMO に応じたテーマなのかではないかと思うので、それらに対して積極的に取り組んでいくべきだと思います。私は川越ではそんなように見えています。

もう一つはこの地区の計画だけやっていると見落としてしまう様々な計画が、TMO の中で浮かび上がってきているのは大きな問題だと思います。例えば、豊島分庁舎の問題、豊島市場の問題、都営バスの車庫の問題、染井霊園の問題等です。文京区の六義園の話ですが、あのようなすばらしい空間が町から見えないのです。そういう意味で、豊島市場の駐車場と染井霊園を緑でつなぐということもあっていいと思います。

最後に、地域の方々にとての具体的な街づくりの課題についてですが、まず、駅から商店街までのアプローチ及び、入口部分の空間をどうするかということだと思います。また、観光バスの乗降をどのよ

うに行くかも問題だと思います。次に、高岩寺までの一本道だけでは、ものすごく混雑してゆっくり、ゆったりという雰囲気ではなくなっていると思います。ですから、もう少し露地空間を積極的に整備していったほうがいいと思います。三つ目は分庁舎の問題とも絡むのですが、私は人の流れを商店街の奥まで引き込むということと、真性寺、高岩寺様以外にも街をバックアップするための核施設が必要だと思うのです。例えば分庁舎のところに昭和記念館みたいなものを造って、トイレや休憩空間を設けたらいいと思います。しかし、高尾先生の話聞いて、単なる昭和記念館ではなくて地域資源を活かす場所というようにもう少し内容を考えなくてはいけないと思いました。四つ目は街並みのデザインについてですが、私はある意味で乱雑な広告が好きですが、やはり街並みとして建物の高さをどう考えるのか、基本的に1階部分は商店にしようとか、そのデザインをどうするかということをもう少し本気で考えてみる必要があると思います。

辻野：ありがとうございました。これまでの話の中で集客力の話がありましたが、実は集客力は落ちてるのではないと思います。売り上げ額は落ちていますが、集客力は依然として大きいと思います。先程内田先生がお話されたように、地蔵通り一本しかない、性格が一本しかないというのは、商店街の性格として単調なところがあると思います。先程「オキラマン」の鶴島さんや、商店街と露天商の変遷の報告でも述べましたように、商店街と露天商も非常に性格が似てきていると思われます。その辺りがキーワードになるかと思います。そうすると、白山通りや裏路地が「裏地蔵通り」というふうになって、もう少しいろいろな形の商店街の展開が見えてくるのではないかと思います。それでは、地元の方に何人かご意見を頂きたいと思います。

長島：長時間に亘って貴重なお話を聞かせて頂きまして誠にありがとうございます。我々もこれからの巣鴨の将来像をいかに考えていくかということと、前の世代から次の世代へとバトンタッチしていくような、世代と世代をつなぐ街づくりをしていかなければならないと感じました。

参加者：みなさんのご意見・ご提案は非常にすばらしいのですが、何をするにも予算が必要となってきます。いろいろとお話を聞いてみると、23区の中で豊島区が最もお金がないということですが、そのことを踏まえた上で提案して頂いた方がよろしいのではないのでしょうか。

齋藤：今日お配りした資料の中で、主な制度を記載しております。中心市街地活性化基本計画を作って、東京都経済産業省の方へ提出したのですが、この基本計画は国の補助金が出るシステムなのです。国が補助金を出しますと今度は東京都の方からも出ますので、さらに区の予算等を活用して行っていきたいと考えております。

参加者：ハード面ではいろいろとお聞きしたのですが、ソフトの面で集客力のことについて、決して集客力が落ちていないとは言えないと思います。また、お年寄りの街と言いながら、放置自転車が店の前に連なっていて、歩行者の妨げになっています。また、四の市はともかく、普段でも路上で様々なものを販売しているので非常に歩きにくく、お年寄りのためにはなっていないのではないかと思います。ベンチがないというお話もありましたが、いくつかの店舗でトイレを含めて、様々な工夫がなされてい

と思います。それから、駅から地蔵通りまでの商店街では、道路交通法に違反しているのにもかかわらず、毎日のように露店が出ているため、非常に歩きにくいです。また、地蔵通りでは平日は 15 時から 18 時まで車両通行止めになっていますが、自転車を除くというふうに書かれておりません。自転車がものすごい勢いで商店街を通るので、もう少し規制をしてもいいのではないかと思います。

辻野：今、齋藤部長がおっしゃったことも含めて、おそらく予算の問題の同時に、街の人を中心に大学生ですとか、新しいマンパワーを生み出して街の活性を図ることは重要だと思います。去年のワークショップや菊祭りでは学生が一生懸命取り組んでくれました。ここで面白いプロジェクトを作っていけば、若い人が街づくりに参加してくれるということで、そういう意味での世代間交流を進めながら、新しい街づくりの方向が見えてくるのではないかと思います。予算がとれるかどうかということだけではなくて、街の人たちがどのように街をマネジメントしていくのが大事だと思います。それに伴ってどうしても必要なお金は行政が出していくということで、行政と地域の方々が協働していくというのが、これからの街づくりにはどうしても不可欠だと思います。巣鴨は全国でも一番うまく取り組んでいるモデルだと私は感心しております。新しい問題が次々と起こる中で、我々もご協力しながら新しい街づくりの方向が見出せればいいなと思っております。

参加者：ワークショップの過程等、いろいろと楽しく聴かせて頂きました。鶴島さんのお話にも出てきましたように、ナビゲーターという言葉と、宮崎先生がお話された大学での取り組みを聞いて、個人的な意見や感情もあるのですが、TMO で働かせて頂きたいなと思います。私自身、千葉大学でまちづくりについて勉強してきて、実際に地域の中で住民の方とまちづくり活動をしてきた部分があります。しかし、実際にまちづくりでは若い人が働く職場がなかなかないというのが実情です。私自身向上心はあるのですが、そのことが実際に職業となって動けるようなところをどうやってつくってあげればいいのかということをもう少し教えて頂きたいと思います。

齋藤：会社が 4 月に設立される予定ですので、まずはこの会社がどうやって収益を上げ、自立した経営ができるかが最大の課題です。また、補助金を導入するまでには、TMO 構想を含めて、国から指定されたものをいろいろと作らなければなりません。今のご要望にお答えできるような形で、すぐにでも優秀な方がおいでいただけるか分かりませんが、是非そういった方々に働いていただけるような会社に育てていきたいと考えております。

参加者：宮崎先生の話にもありましたが、高齢者の生活を支援するということだけではなくて、むしろ高齢者が若者の生活を指導するという、発想も大事だと思います。また、昭和記念館を設けるということですが、昭和レトロというより、江戸という方が新しいと思います。しかし、江戸といってもそのまま持ってくるのではなく、今の世の中を見ながら、江戸文化を取り入れていってみてはいいのではないかと思います。その際に、豊島区だけではなく、文京区や千代田区も含めて江戸時代の人の流れをまちづくりに活かしていけばいいのではないかと思います。シンボルとして、街の中に重々しい、重厚なものを置くのも大事だと思います。

宮崎：私共大正大学でも、地域の中でどのように大正大学を活かしていくことができるかということ

考えております。丁度シンポジウムの中でもあったのですが、村からどのように中山道全体を活性化していくかというところでいうと、大正大学は明治通りと中山道がぶつかっているところにありますので、そこから巣鴨の駅に向かって、地域の中で地域社会の活性化ができるような取り組みを行っていきたいと思っております。それから、大学は仏教についても取り組んでおりますので、巣鴨と仏教というようなことを地域の中に活かして発信できるように、地域の方々と手を結んでいろいろなことに取り組んでいけたらいいと思います。

辻野：高齢化社会に向いつつある現在、これまでの巣鴨の街づくりの蓄積を活かしながら、さらに、歴史を活かし、また、世代間の交流を促すような街づくりを目指しながら、街の活性化を図ることが大切だと改めて思いました。本日は長時間にわたり、貴重な意見を頂き、ありがとうございました。